



東京湾再生官民連携フォーラム

平成29年度事業報告

平成30年3月
東京湾再生官民連携フォーラム

目次

I. 事業期間	1
II. 事業の成果.....	1
1. 政策提案.....	1
1-1. 「東京湾での海水浴復活の方策検討第一次政策提案（案）」について.....	1
1-2. これまでの政策提案への取り組み	1
2. 東京湾再生官民連携フォーラムの法人化について.....	1
3. 経団連自然保護協議会・経団連自然保護基金、創設 25 周年記念式典に参加	1
4. 東京湾再生官民連携フォーラム主催 企業とNPO等マッチング交流会の開催.....	2
5. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 29 年度通常総会の開催	3
6. 東京湾大感謝祭 2017 の開催.....	3
7. 政策提案の経緯「東京湾での海水浴復活の方策検討第一次政策提案」	3
8. 平成 29 年度 PT 長会議開催	3
9. 生物多様性アクション大賞 2017 入賞・授賞式に参加	4
10. シンポジウムなどの開催団体への東京湾再生官民連携フォーラム後援実施	4
11. フォーラムの活動概要を伝える「みんなの東京湾みんなで再生」のパンフレットの改定	5
III. 事業実施経過.....	6
1. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 29 年度 第 1 回企画運営委員会	6
2. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 29 年度 第 2 回企画運営委員会	6
3. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 29 年度 第 3 回企画運営委員会	6
4. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 29 年度 第 4 回企画運営委員会.....	7
IV. 会員募集の実施（平成 29 年度 期末までの推移結果）	8
V. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 29 年度通常総会	9
VI. CSR－NPO未来交流会	10
1. 平成 29 年度 第 1 回 CSR－NPO未来交流 会開催	10
平成 29 年度 第 1 回CSR－NPO未来交流会 参加団体の活動紹介	12
「交流会の結果」平成 29 年度 第 1 回CSR－NPO未来交流会開催報告	21

2. 平成 29 年度 第 2 回 CSR – NPO 未来交流会開催	25
◊交流会の結果◊平成 29 年度 第 2 回 CSR – NPO 未来交流会開催報告	31
3. CSR-NPO 未来交流会 企業・行政等施設見学会 2017.....	34
VII. プロジェクトチームの活動状況	35
◇モニタリング PT (PT 長 横浜国立大学 客員教授 古川 恵太)	35
◇生き物生息場づくり PT 第 2 期の活動 (PT 長 東京大学大学院 教授 佐々木 淳)	35
◇指標活用 PT (PT 長 国土交通省国土技術政策総合研究所 海洋環境研究室長 岡田 知也)	36
◇東京湾大感謝祭 PT (PT 長 NPO 法人海辺づくり研究会 理事・事務局長 木村 尚)	37
◇パブリックアクセス方策・検討 PT (PT 長 NPO 法人 横浜創造まちづくり学会 会長 竹口 秀夫)	39
◇東京湾での海水浴復活の方策検討 PT	39
(P T 長 認定 N P O 法人ふるさと東京を考える実行委員会 理事長 関口 雄三)	39
◇江戸前ブランド育成 P T (P T 長 水産研究・教育機構 牧野グループ長)	40
◇東京湾浅瀬再生実験 P T (P T 長 公益財団法人 日本釣振興会 常務理事 鈴木 康友)	40
◇東京湾の窓 P T (P T 長 谷津干潟ワイズユース・パートナーズ 芝原 達也)	41
◇平成 29 年度 PT 長会議開催	42
VIII. 広報活動 / 交流会参加	42
1. 経団連自然保護協議会のシンポジウムおよび交流会の参加	42
2. 会員へのメール配信	42
3. 東京湾大感謝祭 2017 開催.....	42
4. 生物多様性アクション大賞 2017 授賞式参加.....	44
5. 「東京湾/フォーラム活動の紹介・各地への情報発信」	46
6. 資料 会員メール配信 東京湾 News Letter	48
IX. 平成 29 年度決算報告	51

I. 事業期間

平成 29 年 (2017) 4 月 1 日 (土) ～ 平成 30 年 (2018) 3 月 31 日 (土)

II. 事業の成果

主な活動成果は、以下の通り。

1. 政策提案

1-1. 「東京湾での海水浴復活の方策検討第一次政策提案 (案)」について

平成 29 年度 第 3 回企画運営委員会の審議において、NPO 活動の成功事例と今まで P T で検討してきた成果を他の地域でも応用できるよう提案の構造を整理し、また、事務局が間に立って行政にも協力を求め、更に検討を進めることとなった。

1-2. これまでの政策提案への取り組み

東京湾再生官民連携フォーラムのもとでのプロジェクトチームは、自主テーマとなるミッションを掲げ活動を実施しています。それらの活動を通して生み出される東京湾再生への多様な意見は、フォーラム全体で取りまとめられ、東京湾再生推進会議(※)に提案されます。

<政策提案実績>

○平成 26 年 11 月 17 日 (月) 「新たな指標に関する提案」と「指標についての解説書」を提出

http://www.mlit.go.jp/report/press/port06_hh_000100.html

○平成 28 年 2 月 18 日 (木) マコガレイの産卵場を再生するため等の「生き物生息場づくりに関する提案書」を提出 http://www.mlit.go.jp/report/press/port06_hh_000114.html

○平成 29 年 3 月 30 日 (木) 「東京湾パブリック・アクセス方策に関する第一次政策提案」を提出

http://www.mlit.go.jp/report/press/port06_hh_000138.html

※ 東京湾再生推進会議は、東京湾に関連する 11 の省庁 (部局) 及び 9 つの地方自治体により構成されて、平成 25 年 5 月に「東京湾再生のための行動計画 (第二期)」を策定し、それに基づき東京湾の環境改善のための施策を実施しています。

2. 東京湾再生官民連携フォーラムの法人化について

平成 30 年度総会に向けて一定の方向性を報告予定。

フォーラムの法人化について、様々な観点から法人化のメリット、デメリットを比較検討しながら進めてきました。まだ一定の結論に至ってはいませんが、今年度中には一定の方向性を出して、平成 30 年 10 月の総会にはみなさまにご披露し検討いただけるよう進行します。

3. 経団連自然保護協議会・経団連自然保護基金、創設 25 周年記念式典に参加

平成 29 年 5 月 30 日に、経団連会館で開催の同シンポへの参加。

東京湾再生官民連携フォーラムでは、企業と N G O 等との交流会に参加展示等を実施し、参加団体との交流

促進をおこないました。

(1) 「2017 年度 企業と NGO 等との交流会」開催日：5 月 23 日（火）

場 所：経団連会館・2F ホール

内 容：創設 25 周年の記念式典では、2016 年 11 月 28 日、「25 周年記念特別基金助成事業」審査結果が発表されました。受賞プロジェクトは、「アジア太平洋地域生物多様性保全にかかる次世代人材育成事業- SATO YAMA UMI プロジェクト」。記念講演は、さかなクン 東京海洋大学客員准教授による五感で感じる魚についての講演、次いで、鈴木 日本サンゴ学会会長による「美しい サンゴ礁を取り戻そう」をテーマに行われました。

(2) 企業と NGO 等との交流会（取組紹介）[共催 公益信託経団連自然保護基金] への参加

交流会は、一コマのブースを使用し、18 団体の展示が行われ、関係者・参加者がスムーズに交流できるように、簡単な立食形式での工夫が施されていました。

フォーラムでは、CSR-NPO 未来交流会 2017 の開催 PR、フォーラム活動の紹介をするとともに、各 PT 活動の説明を実施しました。参加団体は主に NGO の活動グループが多く、アジア、東南アジアをエリアとした活動を幅広く実施している説明が、随所で見られ 盛況のうちに閉幕しました。



フォーラム資料ブース 展示



フォーラム活動の説明

4. 東京湾再生官民連携フォーラム主催 企業と NPO 等マッチング交流会の開催

(1) 平成 29 年度 第 1 回 CSR - NPO 未来交流会

日 時：平成 29 年 7 月 20 日(木) 13:00~16:30

参加団体：33 団体

場 所：東京都千代田区麹町 5 - 1 弘済会館 4F (萩)

主 催：東京湾再生官民連携フォーラム

協 力：経団連自然保護協議会、一般財団法人セブン-イレブン記念財団

(2) 平成 29 年度 第 2 回 CSR - NPO 未来交流会

開催日：平成 30 年 2 月 1 日 (木) 13:00~16:30

参加団体：28 団体

場 所：東京都千代田区麹町 5-1 弘済会館 4 F (萩)

主 催：東京湾再生官民連携フォーラム

協 力：経団連自然保護協議会、一般財団法人セブン-イレブン記念財団

(3) 企業・行政等施設見学会の実施（会員限定）・新日鐵住金株式会社 技術開発本部 海域環境実験施設

開催日：9月21日（木）

主 催：東京湾再生官民連携フォーラム

場 所：新日鐵住金株式会社 技術開発本部 海域環境実験施設（千葉県富津市新富 20-1）の施設見学。

新日鐵住金株式会社 技術開発本部において、教室でのレクチャーや施設見学を実施しました。

海域の環境修復に向けて、鉄鋼スラグを原料としたカルシア改質材と浚渫土を混合させた「カルシア改質土」に関する説明などを受けました。「カルシア改質土」浅場の造成や海底の窪みの埋め戻し等に利用されています。改質土は、混合の仕方により強度を高めるなど、リンや硫化水素等の発生抑制効果もあり、生活域の中で、沿岸域や港湾での利便が期待できる環境技術の一つとなっています。

海の再生は、今後も環境技術の蓄積により多様な取り組みと工夫が行われていることが理解できた施設見学会となりました。

5. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 29 年度通常総会の開催

開催日：平成 29 年 10 月 21 日（土） 9：30～11：20

会 場：横浜港大さん橋国際客船ターミナル 大さん橋ホール

出席者：会員数 400(団体・個人)に対し出席 33(団体・個人)、委任状 45(団体・個人)

6. 東京湾大感謝祭 2017 の開催

開催日：平成 29 年 10 月 21 日（土）～22 日（日） 10：00～17：00（荒天のため 22 日中止）

会 場：横浜赤レンガ倉庫広場、周辺、横浜港海上

東京湾大感謝祭 2017 は、会期中 2 万 5 千名の来場がありました。荒天（台風 21 号）のため最終日は開催中止となりましたが、多くの皆様のご理解ご協力により開催できました。

横浜赤レンガ倉庫広場、横浜大棧橋ホール、象の鼻パーク、赤レンガプロムナード、運河パークと陸側、海上側の利用と面的な広がりを見せる様々な工夫が行われました。

10 月 20 日（金）（第 18 回東京湾シンポジウム同時開催）・横浜大棧橋ホールを皮切りに、横浜赤レンガ倉庫広場を中心に全 162 小間、149 社・団体参加しました。

7. 政策提案の経緯「東京湾での海水浴復活の方策検討第一次政策提案」

第三回企画運営委員会に「東京湾での海水浴復活の方策検討第一次政策提案（案）」が提出され、多方面から検討が行われました。葛西での貴重な成功事例を他地域でも応用できるよう提案構造を整理し、更に検討し、平成 30 年度の政策提案に結びつける議論・検討を行います。

8. 平成 29 年度 PT 長会議開催

開催日：平成 29 年 9 月 5 日（火） 16:00～17:45

場 所：みなと総合研究財団会議室

内 容：「政策提案作成の経験共有」

多くの PT 長出席の元に、政策提案についての議論が行われました。

9. 生物多様性アクション大賞 2017 入賞・授賞式に参加

日 時：平成 29 年 12 月 8 日（金）13：30～17：00

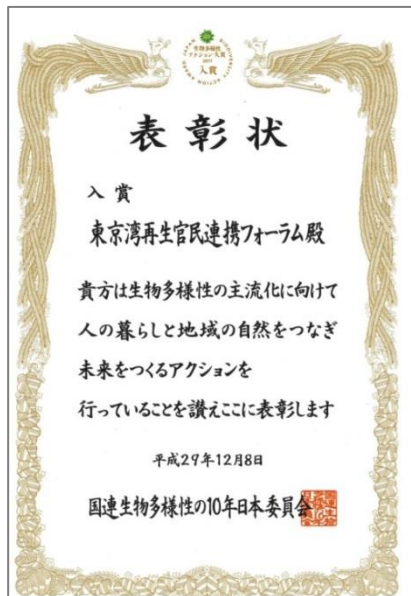
会 場：東京ビッグサイト 会議棟 101 号

主 催：国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）共催・一般財団法人セブン－イレブン記念財団

内 容：「生物多様性アクション大賞 2017」の授賞式

農林水産大臣賞と環境大臣賞の受賞団体の決定及び授賞式が行われました。フォーラム事務局も入賞 38 団体に入り参加しました。

当日は、優秀賞、特別賞の中から審査員による農林水産大臣賞と環境大臣賞の審査がおこなわれ、農林水産大臣賞には「つたえよう部門 魚部」、環境大臣賞には、「まもろう部門 (株) 加藤建設」が受賞しました。



10. シンポジウムなどの開催団体への東京湾再生官民連携フォーラム後援実施

平成 29 年度はシンポジウムなどの後援を実施

(1) 東京湾・公園めぐりスタンプラリーへの後援

開催期日：平成 29 年 6 月 1 日（木）～ 平成 29 年 7 月 17 日（月）

場 所：谷津干潟自然観察センター、行徳鳥獣保護区、葛西臨海公園鳥類園、葛西海浜公園水族園、東京港野鳥公園、大森海苔のふるさと館

主 催：習志野市、谷津干潟ワイズユース・パートナーズ（谷津干潟自然観察センター指定管理者）

主 旨：東京湾関連施設の相互の活性化を図るとともに、施設の連携・協力づくり

(2) 2018 年世界湿地の日 記念シンポジウムへの後援

開催日：2018年2月2日（金）14:00-17:00

場 所：国連大学エリザベスローズ国際会議場（東京・渋谷）

主 催：日本国際湿地保全連合、国連大学サステナビリティ高等研究、
地球環境パートナーシッププラザ

テーマ：都市の湿地を守ろう～持続可能な未来のために～街の暮らしを支える湿地

(3) 第9回東京湾海洋環境シンポジウム 「東京湾を学ぶ：生態系の現状2017」への後援

開催日：平成30年2月12日（月・休日）

場 所：東邦大学理学部5号館5104教室（習志野キャンパス）

主 催：東京湾海洋環境研究会

主 旨：東京湾の再生に向けた活動のリテラシーとして、研究者ばかりでなく、市民や行政で共有することを目的に行っている東京湾海洋環境シンポジウムでは、今回、東京湾の水辺でのこれらの生物調査に着目し、その成果を総覧し、課題の発掘を行います。

11. フォーラムの活動概要を伝える「みんなの東京湾みんなで再生」のパンフレットの改定

フォーラムの使命とその構成要素となる9つのプロジェクトチーム、東京湾再生アンバサダーの紹介、会員数内訳などを簡潔に優しく紹介したパンフレット。交流会をはじめとして、初めて接していただく方へのフォーラムの簡単紹介ツールです。

改定日：2017年5月22日(月)

内 容：会員募集の案内

東京湾再生目標について

フォーラム活動の案内

PT（プロジェクトチーム）の活動概要の紹介

会員構成について

体 裁：A3判 二つ折り



Ⅲ. 事業実施経過

1. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 29 年度 第 1 回企画運営委員会

開催日：平成 29 年 6 月 6 日（火） 16：00～18：00

場 所：スタンダード会議室 虎ノ門 SQUARE 店（東京都港区虎ノ門 1-15-10 名和ビル 4 階）

議事次第

「審議事項」

- (1) 平成 28 年度事業報告（案）、決算（案）及び監査について
- (2) 平成 29 年度事業予算の修正について

「報告事項」

- (1) CSR-NPO 未来交流会（マッチング交流会）について
- (2) 企業・行政等施設見学会について
- (3) フォーラム平成 29 年度通常総会について
- (4) 平成 29 年度 P T 活動報告
- (5) フォーラム法人化検討委員会（第 2 回）報告
- (6) その他

2. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 29 年度 第 2 回企画運営委員会

開催日：平成 29 年 8 月 25 日（金） 10：00～12：00

場 所：スタンダード会議室 虎ノ門 SQUARE 店（東京都港区虎ノ門 1-15-10 名和ビル 4 階）

議事次第

「審議事項」

- (1) 東京湾での海水浴復活の方策検討 P T 政策提案について
- (2) 平成 29 年度フォーラム総会議事次第（案）について

「報告事項」

- (1) 平成 29 年度 P T 活動報告
- (2) P T 長会議開催について
- (3) CSR-NPO 未来交流会（マッチング交流会）報告
- (4) 企業・行政等施設見学会（案）
- (5) 企画運営委員会委員の任期について
- (6) その他

3. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 29 年度 第 3 回企画運営委員会

開催日：平成 29 年 10 月 12 日（木） 16：00～18：00

場 所：スタンダード会議室 虎ノ門 SQUARE 店（東京都港区虎ノ門 1-15-10 名和ビル 4 階）

議事次第

「審議事項」

- (1) 東京湾での海水浴復活の方策検討 P T 政策提案について
- (2) 平成 29 年度フォーラム総会議事次第（案）について

(3) 企画運営委員会委員の選任及び企画運営委員長の選出について

≪報告事項≫

- (1) P T 長会議報告
- (2) 平成 29 年度 P T 活動報告
- (3) 平成 29 年度企業・行政等施設見学会報告
- (4) 経団連講演報告
- (5) その他：東京都海上公園ビジョンについて

4. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 29 年度 第 4 回企画運営委員会

開催日：平成 30 年 3 月 27 日（火） 10：00～12：00

場 所：スタンダード会議室 虎ノ門 S Q U A R E 店

議事次第

≪審議事項≫

- (1) フォーラム平成 30 年度事業計画（案）、予算(案)について
- (2) C S R - N P O 未来交流会（マッチング）について
- (3) 企業・行政等施設見学会について
- (4) 平成 30 年度フォーラム総会開催について

≪報告事項≫

- (1) フォーラム平成 29 年度事業報告（案）について
- (2) P T 平成 29 年度活動報告、平成 30 年度活動計画
- (3) 東京湾での海水浴復活方策の検討 P T 政策提案再検討状況
- (4) 東京湾再生アンバサダーについて
- (5) その他

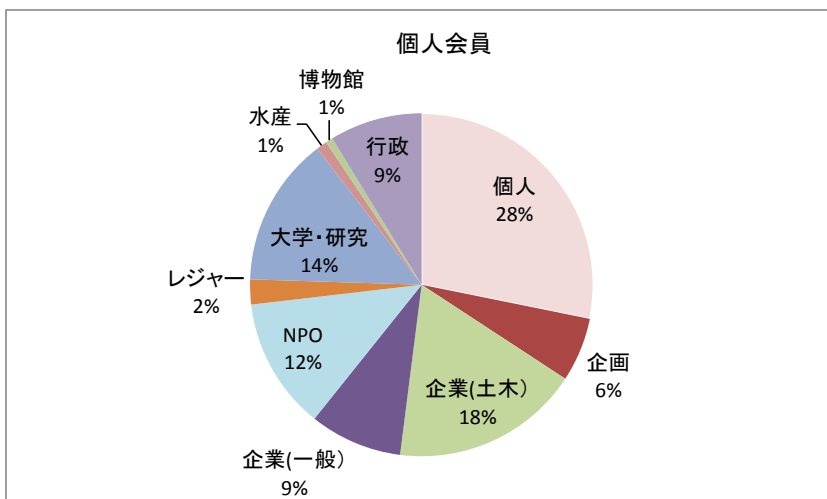
IV. 会員募集の実施（平成 29 年度 期末までの推移結果）

「東京湾再生官民連携フォーラム」（以下、フォーラムという）の趣旨に賛同し、会への参加を希望し、会員への登録を申し込んだ者。東京湾の再生にあたっては、東京湾に関わる企業、研究者、水産関係者、レジャー関係者、NPO、市民、行政等の多様な関係者が、その英知を出し合い、共に連携協働し、楽しみながら環境再生の取組をする。賛同された会員の状況は下記のとおり。微増ながら毎年着実に会員が増加しています。

（会員カウント：平成 30 年 3 月 31 日 期末）

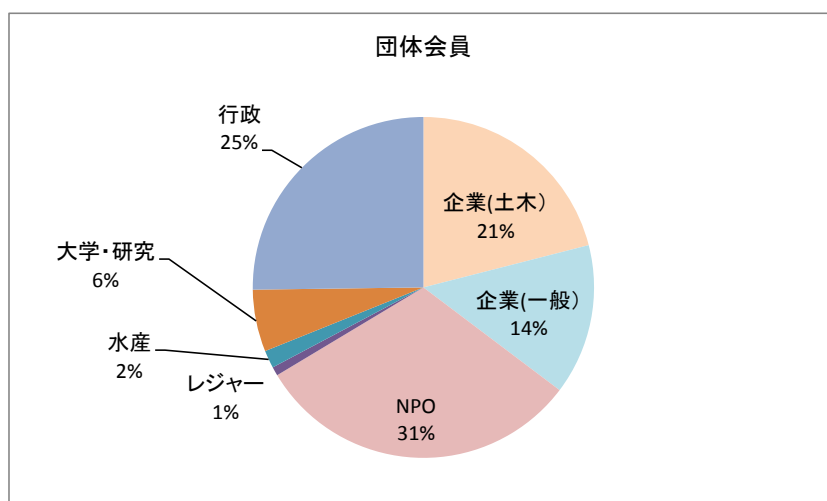
個人会員

個人会員（単位：人、%）		
個人	84	28%
企画	18	6%
企業(土木)	53	18%
企業(一般)	26	9%
NPO	37	12%
レジャー	7	2%
大学・研究	42	14%
水産	3	1%
博物館	2	1%
行政	26	9%
合計	298	100%



団体会員

団体会員（単位：団体、%）		
企業(土木)	25	21%
企業(一般)	17	14%
NPO	37	31%
レジャー	1	1%
水産	2	2%
大学・研究	7	6%
行政	30	25%
合計	119	100%



V. 東京湾再生官民連携フォーラム 平成 29 年度通常総会

日 時：平成 29 年 10 月 21 日（土） 9：30～11：20

会 場：横浜港大さん橋国際客船ターミナル 大さん橋赤ホール

出席者：会員数 400(団体・個人)に対し出席 33(団体・個人)、委任状 45(団体・個人)

議事次第

1. 開会

2. 議長挨拶

東京湾再生官民連携フォーラム議長 來生 新

3. 議事

(1) 議長選出

(2) 議題の採択

(3) 議事録署名人の選出

(4) 報告議題

(4)-1 平成 28 年度活動報告及び平成 29 年度活動計画

(4)-2 東京湾での海水浴復活の方策政策提案経過報告

(4)-3 プロジェクトチームの活動報告

(4)-4 CSR-NPO 未来交流会報告

(4)-5 企業・行政等施設見学会報告

(5) 審議議題

(5)-1 役員改選について

(6) その他

4. 閉会

配付資料

資料-1 第一号議案 平成 29 年度通常総会 議事次第（案）

資料-2 第二号議案 役員改選（案）

【議長挨拶要旨】 東京湾再生官民連携フォーラム議長 來生 新

これまで毎年政策提案を行ってきましたが、今年度は政策提案を具体的に取りまとめるまでには至りませんでした。2020 年東京オリンピック・パラリンピックを控えて、東京湾でのトライアスロンなども水質がどうかという問題もありますが、今年度は、東京湾でもっともっと海水浴ができるようにということで政策提案を検討してきましたが、10 月開催の企画運営委員会での討議結果、より具体的な政策提案にしたほうが良いということで、今年度は見送るという結論になりました。

もう一つの課題として、フォーラムの法人化を検討してきましたが、様々な観点から法人化のメリット、デメリットを比較検討しながら進めてきました。まだ総会でご報告できる一定の結論に至ってはいませんが、何とか今年度中には一定の方向性を出して、来年度の総会にはみなさまにご披露し検討いただくことができると考えています。今年度検討すべき要素が多々ある中で今日を迎えていますが、来年度に向けてなお一層努力を続けてまいります。

VI. CSR – NPO未来交流会

1. 平成 29 年度 第 1 回 CSR – NPO未来交流会開催

<開催概要>

開催日：平成 29 年 7 月 20 日(木) 13：00～16：30

場 所：東京都千代田区麹町 5 – 1 弘済会館 4F (萩)

・主催：東京湾再生官民連携フォーラム

・協力：経団連自然保護協議会、一般財団法人セブン-イレブン記念財

・参加団体：33 団体 人数：47 名

内 容：

今回の開催では新しい試みとして、主に企業様向けのプログラムとして、社員参加ができるメニューを持つ NPO 組織のプログラムの紹介を行いました。

ご参加頂いた企業様また NPO 様からも情報収集を含めて交流会に参加して良かったとのご意見を頂くことができました。



◆ プログラム

I 部 組織連携事例講演 13：10～14：25

	主催者挨拶	東京湾再生官民連携フォーラム 議長 来生 新
講演 - 1	海洋資源を活用した温暖化対策プロジェクト「横浜ブルーカーボン」	吉田 美緒：横浜市温暖化対策統括本部
講演 - 2	B & G 企業研修・水上スポーツを通じて、できる社会人を育てる	宮寄 秀一：公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
講演 - 3	交流会マッチング事例 -子ども達の学び舎を守る！NPO×企業でできること-	神保 清司：NPO 法人 千葉自然学校
講演 - 4	自然体験型の企業研修によるコミュニケーション能力の醸成	山崎 宏：NPO 法人ホールアース研究所

II 部 プレゼンテーションセッション 14：25～15：00

① 体験型研修とカウンセリングの事例	治郎丸 世志子： NPO 法人 Up/教育コンサルティング コンチエルト
② 企業と連携で進める自然保護 生物多様性保全活動の事例紹介	岩橋 大悟：公益財団法人日本自然保護協会
③ 都市農業がまちづくりに貢献する役割について	若尾 健太郎：西東京農地保全協議会
④ 東京湾の歴史とものづくりの原点を知る「海苔つけ体験」	小山 文大：認定 NPO 法人海苔のふるさと会
⑤ 自然と共存できるまち	横山 清美：浦安三番瀬を大切に作る会
⑥ 「江戸前干潟研究学校」 江戸前魚類にとっての真水の魅力調査	風呂田 利夫：認定 NPO 法人行徳野鳥観察舎友の会

Ⅲ部 情報交流会 15:10～16:20

情報交流会 (30分×2セッション)

モデレーター 中井 邦治：経団連自然保護協議会 事務局次長
菅家 英朗：NPO 法人海辺つくり研究会 理事



- ◆二つのグループに分かれ、モデレーターがプレゼンテーション団体・NPO 組織と企業の交流をお手伝い。熱心な情報交換が行われました。

平成 29 年度 第 1 回 C S R – N P O 未来交流会 参加団体の活動紹介

(活動紹介は、フォーラム事務局が各団体 H p から引用)

【講演者】

(順不同)

	団 体 名	活 動 紹 介
1	横浜市温暖化対策統括本部	<p>http://www.city.yokohama.lg.jp/ondan/</p> <p>◆横浜市人口総数 3,733,973 人 対前月比△2 人 対前年同月比 +2,223 人低炭素社会に向けて温暖化対策を臣民と共に推進。横浜グリーンバレー(YGV)・横浜ブルーカーボンなど多岐にわたる対策に取り組む。</p>
2	N P O 法人 千葉自然学校	<p>http://www.chiba-ns.net/</p> <p>千葉県内の自然体験を通して、千葉県の里山・里海の保全と地域の活性化を図る活動をおこなっています。千葉自然学校では、指定管理者運営を受け、大房岬自然公園、南房総市大房岬少年自然の家、君津亀山少年自然の家に関する管理を実施しています。</p> <p>自然教室、移動教室、オリエンテーション合宿、ゼミ合宿などの支援や自然とともに体験活動などを支援しています。</p>
3	公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団 (B & G財団)	<p>http://www.bgf.or.jp/</p> <p>B & G 財団は、社会人としての意識、社会・組織の中での協調性や連帯意識そして自分に対する自覚意識の基礎的なマナーなどの指導教育に取り組んできました。</p> <p>今までの指導ノウハウを活用して「できる社会人を育てる」B & G 流企業研修を実施します。</p> <p>水上スポーツなどの集団組織による集団組織管理、コミュニケーションの必要性や連携、状況判断能力のアップ"など、これからの社会人に必要なスキルを身に着ける実践型研修です。</p>
4	N P O 法人 ホールアース 研究所	<p>http://wens.gr.jp/index.html</p> <p>■ホールアース自然学校は、現在 3 つの法人格があります。株式会社ホールアース、農業生産法人 株式会社ホールアース農場、そして特定非営利活動法人ホールアース研究所。</p> <p>多様な顧客とのパートナーシップの可能性を拡げることで、それぞれの組織の特徴を活かした事業に取り組んでいきます。</p> <p><おもな事業></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自然体験プログラムの企画運営 2. 企業・行政・社会セクターとの協働事業 <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成 (ガイド・環境教育)・ビジターセンターの運営 ・エコツーリズム (観光振興)・企業 CSR 活動の支援・協働ビジネスパートナー 3. 社会的責任への取り組み など

【プレゼンテーション団体】

	団 体 名	活 動 紹 介
1	特定非営利活動法人U p 教育コンサルティング コンチェルト	<p><おもな活動></p> <p>国際的な視点に立ち、国内外の個人・法人・教育機関を対象に、主として子どもたちや女性に関する様々な課題についてのコンサルティング、調査研究をおこなっています。</p> <p>また要望により講演、セミナーなどを実施しています。</p> <p>教育、環境福祉から芸術に至るまで、様々な分野の専門家とのコラボレーションによる社会貢献を目指しています。</p>
2	公益財団法人 日本自然保護協会	<p>http://www.nacsj.or.jp/</p> <p><おもな活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶滅危惧種を守る活動 ・自然観察活動への取り組み ・自然保護活動 <p><講習会等></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然観察指導員の養成講習会の開催 ・NACS-J 市民カレッジ（N カレ）の開催 など
3	西東京農地保全協議会	<p>http://www.minhata.com/</p> <p>農業・畑を通して、一緒に農作物を栽培する体験・コミュニティの形成活動を行っています。</p> <p><おもな活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ■農体験の実施 <p>区画を区切らず、参加者全員が同じ畑で同じ作物を作るコミュニティです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■各種イベント <p>自分たちの畑で採れたものを地域のマルシェで販売、採れたて野菜で食育ワークショップの実施。畑で子育てイベントを行なうなど、農」や「食」を通じて、地域の人々がつながるイベントを実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■みんなの畑・芝久保町 <p>毎週水曜日の午後は、オープンデーとして誰でも見学が可能です。</p>
4	認定特定非営利活動法人 大森海苔のふるさと会	<p>http://norinoyakata.web.fc2.com/07npo.html</p> <p>海苔づくりを通して地域の文化の醸成活動を実施しています。</p> <p>《主な活動》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海苔つけの指導や講演などをつうじた海苔づくりの歴史や文化の継承 ・ふるさとの浜辺などを活用した自然環境教育 ・「大森 海苔のふるさと館」の管理運営 など

	団 体 名	活 動 紹 介
5	浦安三番瀬を大切にする会	http://ura3banze.ciao.jp/ <主な活動> ・年に一回の「浦安三番瀬クリーンアップ大作戦」の開催 ・毎月第1日曜日に三番瀬ミニクリーンアップを実施。 ・2015年・16年、市民活動補助金活性化事業を受けて、東京湾の生き物のゆりかご 三番瀬を学ぼう！ を展開中。
6	認定 NPO 法人 行徳野鳥 観察舎友の会	http://gyotokubird.wixsite.com/npofgbo 『千葉県行徳鳥獣保護区』、『宮内庁新浜鴨場』のエリアで、自然に親しむイベントの開催、野鳥の救護など、環境保護活動を行なっています。 <おもな取り組み> ・野鳥病院 ・自然保護区の管理 行徳鳥獣保護区』の管理や環境改善に携わっています。 ・自然観察会 自然観察会の開催。毎週日曜の『定例観察会』、夕方の保護区を巡る『夕暮れ観察会』、 毎月第1木曜の『平日観察会』などの実施 ・ボランティア体験 毎月第4土曜日を“ボランティアデー”として、自然保護区の管理作業を体験。

【参加企業 - 1】

	団 体 名	活 動 紹 介
1	経団連自然保護協議会	https://www.keidanren.or.jp/kncf/ 経団連自然保護協議会は、経団連の会員企業のうち、自然保護や生物多様性保全に積極的に取り組んでいる約100社が参画しています。 <おもな取り組み> ・経団連自然保護基金による自然保護プロジェクトの支援 ・経済界の取り組みに関する情報発信ならびに経済界意見の反映 ・企業とNGO等の交流推進 ・自然保護や生物多様性保全に関する啓発・情報提供活動 ・自然保護や生物 ・多様性保全を通じた地域創生」 などの事業に注力しています。

	団 体 名	活 動 紹 介
2	積水化学工業株式会社	<p>http://www.sekisui.co.jp/</p> <p><おもな事業分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ■住宅カンパニー 【住宅事業】【リフォーム事業】「セキスイファミエス」【不動産事業】 ■環境・ライフラインカンパニー 【配管・インフラ分野】【建築・住環境分野】 ■高機能プラスチックカンパニー 【エレクトロニクス分野】【車輛・輸送分野】【住インフラ材分野】 【ライフサイエンス分野】 <p>など多岐にわたります。</p>
3	三菱電機株式会社	<p>http://www.mitsubishielectric.co.jp/index.html</p> <p><おもな事業分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ■重電システム：タービン発電機、大型映像表示装置、エレベーターなど ■産業メカトロニクス：プログラマブルコントローラ、数値制御装置、カーマルチメディア機器など ■情報通信システム：無線通信機器、人工衛星、ネットワークセキュリティシステムなど ■電子デバイス：パワーモジュール、高周波素子、光素子、液晶表示装置など ■家庭電器：液晶テレビ、ルームエアコン、冷蔵庫 <p>など多岐にわたります。</p>
4	株式会社ゴールドウィン	<p>http://www.goldwin.co.jp/</p> <p><おもな事業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ■各種スポーツ用品の製造および販売 <ul style="list-style-type: none"> ・アウトドアスタイル関連商品 登山用ウェア、マリンウェア、アウトドア用品および関連商品 ・アスレチックスタイル関連商品 トレーニングウェア、テニスウェア、フィットネスウェアなど、および関連商品 ・アクティブスタイル関連商品 スキーウェア、スノーボードウェア、モーターサイクルウェアおよび関連商品 ・その他 機能アンダーウェア、ハイテックウェア（防塵服）、OEM など

	団 体 名	活 動 紹 介
5	株式会社日立製作所	<p>http://www.hitachi.co.jp/</p> <p><事業分野></p> <ul style="list-style-type: none"> ■情報・通信：サーバ/ストレージ/ネットワーク/パソコン/ソフトウェア/映像システム/ITソリューション ■電力：原子力発電/送電/変電 ■産業：産業用機器（モータ、インバータなど）/プラント ■公共・都市・交通：水環境ソリューション/エレベーター/エスカレーター/ビル管理/交通システム/鉄道システム/空調・低温・環境機器/施設用照明 ■家電：冷蔵庫/洗濯機・衣類乾燥機/クリーナー/エアコン/電子レンジ/炊飯器/空気清浄機/LED 照明器具・LED 電球 ■住まい・生活サービス：ホームエレベーターなど ■電子装置・システム：分析装置/半導体製造装置/放送システム ほか、さまざまな業種分野にわたります。
6	株式会社クリエイティブ PR	<p>http://www.creative-pr.jp/partner.html</p> <p><おもな事業内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PR 企画立案と実施・PR 業務代行及びコンサルティング ・ 各種イベント企画及び運営 ・ メディア（コミュニケーションツール/オペレーションツールなど）の開発 ・ 企画・編集・デザイン ・ 広告代理業
7	コスモエネルギーホールディングス(株)	<p>https://ceh.cosmo-oil.co.jp/index.html</p> <p>■総合石油事業等を行う傘下グループ会社の経営管理及びそれに付帯する業務</p> <p><おもな事業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資源開発事業・供給事業・販売事業： コスモ石油サービスステーション、コスモスマートビークル、コスモ石油のカードなど。

【参加市民団体】

	団 体 名	活 動 紹 介
1	NPO 法人 リサイクルソリューション	<p>http://www.recycle-solution.jp/</p> <p><おもな活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ リサイクルのための新材料・技術の調査、研究。普及、啓蒙活動の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境保全技術など広範な分野を対象にした技術研究会の支援 ・ リサイクルソリューションの活動報告やリサイクル最新情報の紹介活動 ・ シンポジウム、講演会、セミナーなどの開催。
2	NPO 法人 森のライフスタイル研究所	<p>http://moridukuri.or.jp/</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 人々と企業、行政との協業による森づくり活動の展開 <p><おもな活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市民と企業による森づくり活動、 2. 企業の木づかい活動（社員参加型 環境・社会貢献活動プログラムの提供）、 3. 母と子の野外体験活動 <p>具体的なプロジェクトは多岐にわたります。</p> <p>例：八王子市上川の里 特別緑地保全地区にて、30年ぶりの田んぼ復活大作戦。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業とコラボレーションによる多数の活動を実施。
3	レインボー七つの島 連絡会議	<p>http://www.saga-shima-show.jp/site/profile.html</p> <p><おもな活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 佐賀県北部玄界灘に浮かぶ七つの島・高島、神集島、小川島、加唐島、松島、馬渡島、向島および加部島を活性化させるための活動に取り組んでいます。
4	NPO 法人 エコロジー オンライン	<p>この法人は一般の人々に対して、健全な市民生活に不可欠な環境情報の提供と芸術、国際交流、里山保全を通じた持続可能な社会づくり及び自立的な健康管理に向けた知識の関する事業を行い、もって、公益の増進に寄与することを目的とする。</p>

	団 体 名	活 動 紹 介
5	認定 NPO 法人 地球環境共生ネットワーク	http://www.unet.or.jp/ <おもな活動> ■EM（有用微生物群）技術を用いた水系浄化、資源リサイクル、環境にやさしい農業等を推進しています。 ・会員による環境浄化活動の支援（基本事業の推進） ・イベント（「善循環の輪」の集い）の開催・広報活動 ・プール清掃をはじめとする学校現場における EM 活用の推進（環境学習支援） ・各種プロジェクトの推進（モデル現場の育成） の5つの事業を中心に活動を展開しています。
6	NPO 法人 二十一環境研究協会	<おもな活動> 隅田川周辺を中心とした街づくり、地域活性化活動などに取り組む。同時に、環境活動や隅田川を利用して、栈橋などの有効利用の検討などを図る取り組みを計画し、街の活性化に尽力することを目指しています。
7	NPO 法人 全国ものづくり連絡協議会	コンサルテーション、コーディネート業務を中心展開しています。 <おもな活動> ものづくり、まちづくり、環境づくり、人づくりの4つの柱を中心に活動しています。プロジェクトにより企画から運営まで一貫したコーディネートを実施します。
8	NPO 法人 里山を守る会	<おもな活動> 雑木林を整備して里山として活用し、子供たちの自然体験活動の充実と環境保全を図る事業などに取り組んでいます。 具体的な作業として、下草刈り、間伐、植林、落ち葉集め、植物観察会、植菌体験、等を実施しています。
9	NPO 法人 日本自立支援機構	http://www.npojso.or.jp/jso/index.html <目指す活動> 1. 障害者や高齢者が労働を通じて社会に参加し、自立したゆたかな暮らしを築くための事業創造 2. 共に生きみんなが幸せに生活できる社会の実現 3. 参画事業や啓蒙運動を促進し、障害者や高齢者が生きがいと誇りをもてる社会の構築 4. ケアリング・エコノミックスをなす事業体と経営 に向けた取り組みを実施しています。

	団 体 名	活 動 紹 介
10	NPO 法人 日本渚の美術協会	http://www.npo-nagisa.com/ <おもな活動> 1. 海と渚の環境保全・美化活動（ビーチクリエーション活動） ・ 海洋環境保全・美化活動の主催及び支援 など 2. 渚の美術の創作・啓発活動（シーボーンアート活動） ・ 「海と渚の環境工作教室」の運営による創作活動及び支援 ・ シーボーンアート展示会・交流会の開催
11	下堰緑地の会	http://www.george24.com/~yamahara/02katudou.html 府中かんきょう市民の会から分離独立する形で新しい団体「下堰緑地の会」が発足。現在は、この「下堰緑地の会」により、下堰緑地の保全・維持活動を行っています。 <活動目標> ・ 「野草や樹木の自生環境の維持と保全」 ・ 「住民や訪れる人が散策したり憩える空間づくり」 ・ 「子どもが自然学習のできる環境づくり」 ・ 「農業用水路としての役割の伝承」
12	海上保安庁交通部 安全対策課	http://www.kaiho.mlit.go.jp/soshiki/koutsuu/keikakuunyoka.html <業務内容> ・ 海難の調査に関するを行っています。 ・ 海難防止に関する計画に関するを行っています。 ・ 海難防止その他海上における船舶交通の安全についての啓発に関するを行っています。 ・ 船舶交通の安全のために必要な事項の通報に関するを行っています。 ・ ディファレンシャル GPS の運用に関するを行っています。 ・ 気象の観測及びその通報に関するを行っています。
13	公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団	http://www.bgf.or.jp/about_us/ <活動内容> B&G財団は、青い海（ブルーシー）と緑の大地（グリーンランド）を活動の場として、海洋性レクリエーションをはじめとする自然体験活動などを通じて、次代を担う青少年の健全育成と幼児から高齢者まで国民の皆様への"心とからだの健康づくり"を推進しています。

	団 体 名	活 動 紹 介
14	東京湾の環境を良くするために行動する会	http://www.tokyowan.jp/ <おもな活動> 1. 「東京湾環境再生宣言（仮称）」の策定 2. 新しい協働の形「東京湾システム」の提案 3. 行動計画の策定 4. 行動計画にもとづく、具体的「行動」の実践 5. 会の活動に共鳴・共感する輪の拡大のための情報 6. 人材の紹介等、企業・市民・研究者間のつながりの橋わたし 7. 科学的・文化的「私見」の向上・深化のための調査研究等の振興 8. 市民活動等を支援するための助成 9. 「東京湾の日（仮称）」の設定の提案とシンポジウムの開催 など、多岐にわたります。
15	海都横浜を創る会	http://kaito.yokohama/ この法人は、海洋に関連するあらゆる分野に対して、文化発信・産業創出・人材育成に関する事業を行い、横浜のまちづくりに寄与することを目的とする。
16	一般財団法人 セブン-イレブン記念財団	http://www.7midori.org/midori/index.html 一般財団法人セブン-イレブン記念財団は(株)セブン-イレブン・ジャパン創立20周年記念事業として、加盟店とセブン-イレブン本部が一体となって環境をテーマに社会貢献活動に取り組むことを目的として、1993年(平成5年)に設立されました。 セブン-イレブン店頭でお客様からお預かりした募金とセブン-イレブン本部からの寄付金等を基に、セブン-イレブン加盟店とセブン-イレブン本部が相互協力のもと環境市民団体への支援活動や自然環境保護・保全、災害復興支援、広報活動などを行っています。

※ 詳細は各組織・団体のHPをご参照ください。

「交流会の結果」平成 29 年度 第 1 回 CSR – NPO 未来交流会開催報告

アンケート結果

- アンケート回答者：23 名、無記名方式、会場配布・回収
- 講演テーマ：「参加型 体験研修プログラム事例研究交流」
- 開催日：平成 29 年 7 月 20 日（木） 13：00～16：30
- 開催場所：東京都千代田区麹町 5 – 1 弘済会館 4F（萩）
- 参加団体：33 団体、47 名

平成 29 年度第 1 回 CSR – NPO 未来交流会は、新しい試みとして社員参加ができるメニューを持つ NPO 組織のプログラムの紹介を行った。テーマは「参加型 体験研修プログラム事例研究交流」。アンケートの回答は、おおむね好評が寄せられている。アンケート内容は下記の通り。

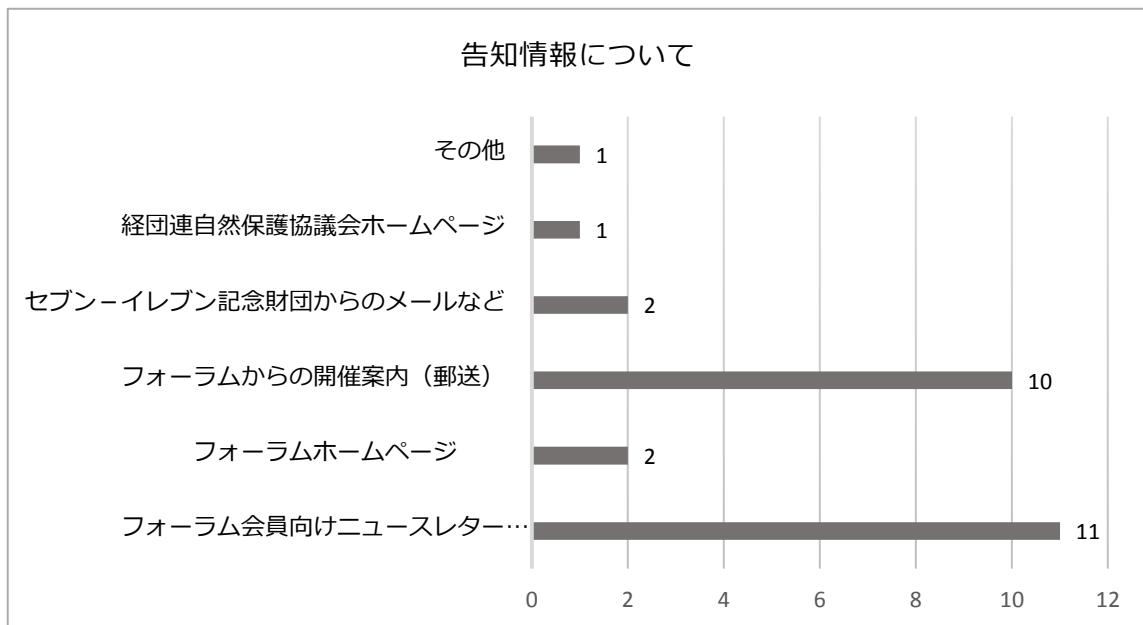
本交流会の開催情報の入手方法を尋ねた。

設問<CSR-NPO 未来交流会 2017 は何でお知りになりましたか>

<複数回答、単位：件数>

会員向けの案内メールとチラシ同封のダイレクトメールがその役割を果たしている。前回の交流会で不足していた企業への案内の DM を増やし、告知範囲を広げた結果となっている。

その効果で企業からの参加も前回より増加している。また、日ごろの活動での会員メールも効果的で、フォーラム活動サポートいただいている会員からの反響が反映された結果となった。



プログラム内容は下記の通り。

I 部 組織連携事例講演

講演－1 海洋資源を活用した温暖化対策プロジェクト「横浜ブルーカーボン」

吉田 美緒：横浜市温暖化対策統括本部

講演－2 B & G企業研修・水上スポーツを通じて、できる社会人を育てる

宮崎 秀一：公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンアイランド財団

講演－3 交流会マッチング事例－子ども達の学び舎を守る！NPO×企業でできること－

神保 清司：NPO 法人 千葉自然学校

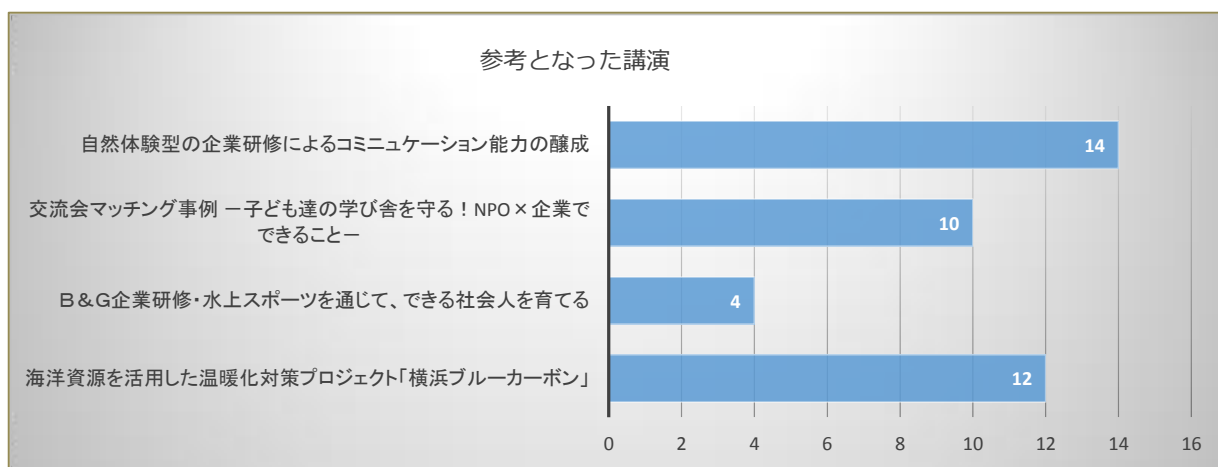
講演－4 自然体験型の企業研修によるコミュニケーション能力の醸成

山崎 宏：NPO 法人ホールアース研究所

設問<参考となった講演内容>

<複数回答、単位：件数>

横浜方式のブルーカーボンへの取り組みへの関心は高く、自治体の中でも、最も先進的な取り組みとして評価された。また NPO 法人ホールアースのグループ活動は、自然学校活動の経験値が高いことからの参考評価と受け止められます。

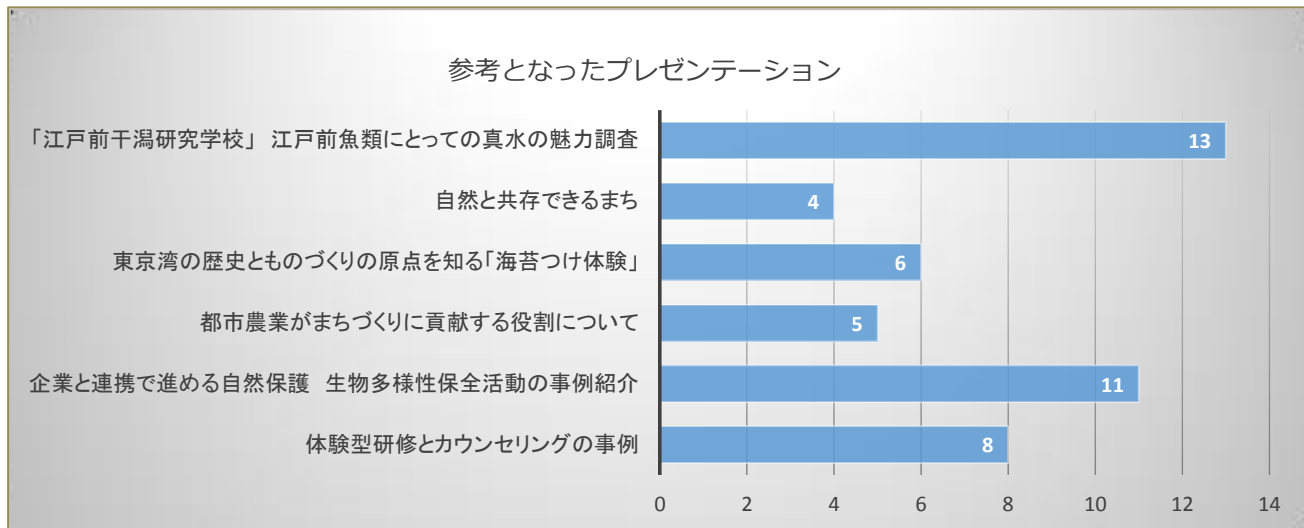


II 部 プレゼンテーションセッション 14：25～15：00

- ① 体験型研修とカウンセリングの事例 治郎丸 世志子：NPO 法人 Up/教育コンサルティング コンチェルト
- ② 企業と連携で進める自然保護 生物多様性保全活動の事例紹介 岩橋 大悟：公益財団法人日本自然保護協会
- ③ 都市農業がまちづくりに貢献する役割について 若尾 健太郎：西東京農地保全協議会
- ④ 東京湾の歴史とものづくりの原点を知る「海苔つけ体験」 小山 文大：認定 NPO 法人海苔のふるさと会
- ⑤ 自然と共存できるまち 横山 清美：浦安三番瀬を大切にする会
- ⑥ 「江戸前干潟研究学校」江戸前魚類にとっての真水の魅力調査 風呂田 利夫：認定 NPO 法人行徳野鳥観察舎友の会

設問<参考となったプレゼンテーション内容>

<複数回答、単位：件数>

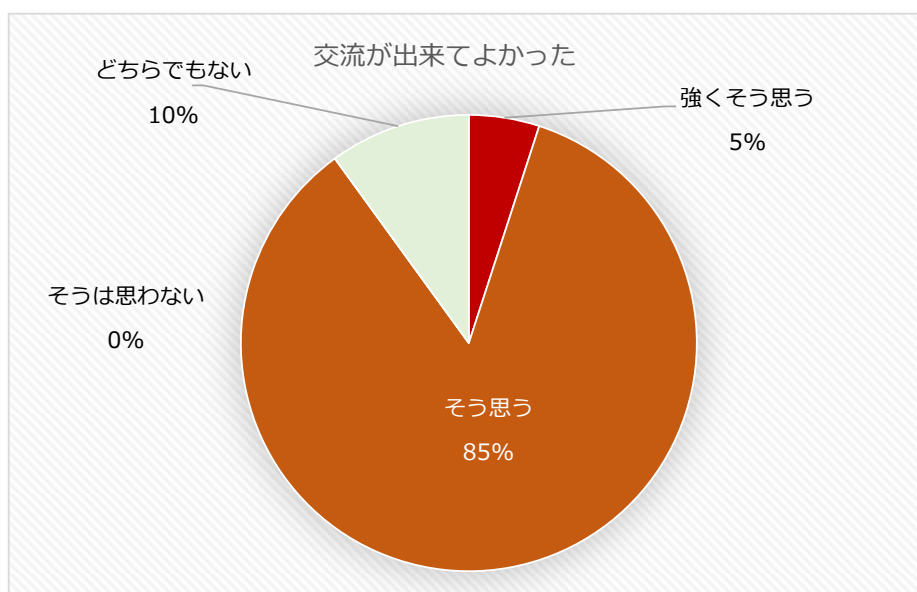


Ⅲ部 情報交流会 (30分×2セッション)

参加団体・組織の交流の仕方として、二つのグループに分かれ、時間により一部の参加者の入れ替えながら、情報交換を実施した。コミュニケーションのコーディネータを中心にそれぞれ、自己紹介、参加目的、現在のCSR取組の現状、交流会への期待などや講演者・プレゼン団体の意見交換が図られました。

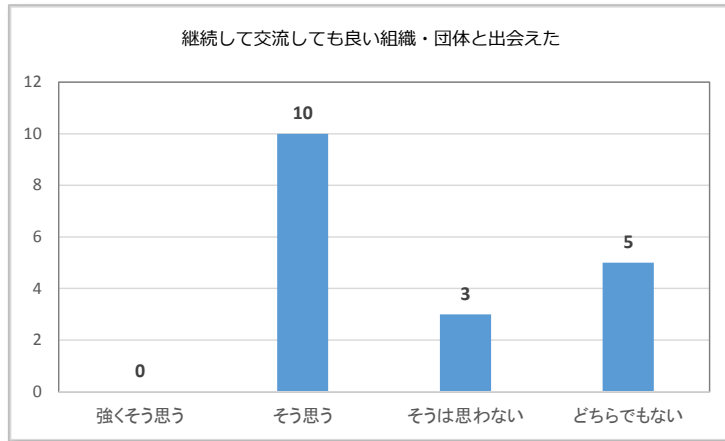
○設問<交流印象をお聞かせください>

設問 1 ■ 交流が出来てよかった？

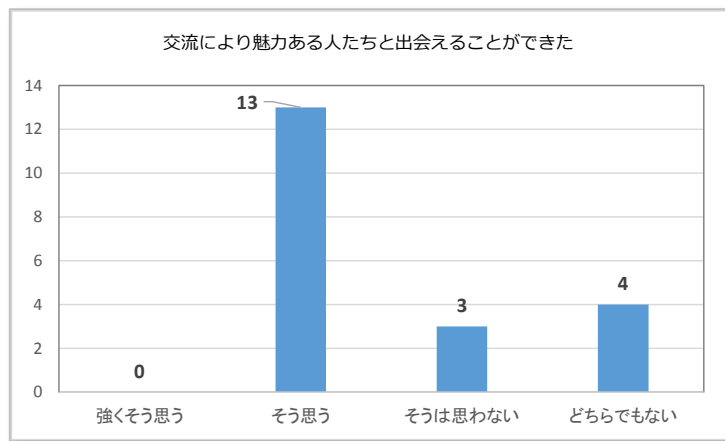


「強くそう思う」、「そう思う」の回答者が 90%にのぼり、交流会参加の価値を見出している。

設問 2 ■ 継続して交流しても良い組織・団体と出会えた？ <複数回答、単位：件数>

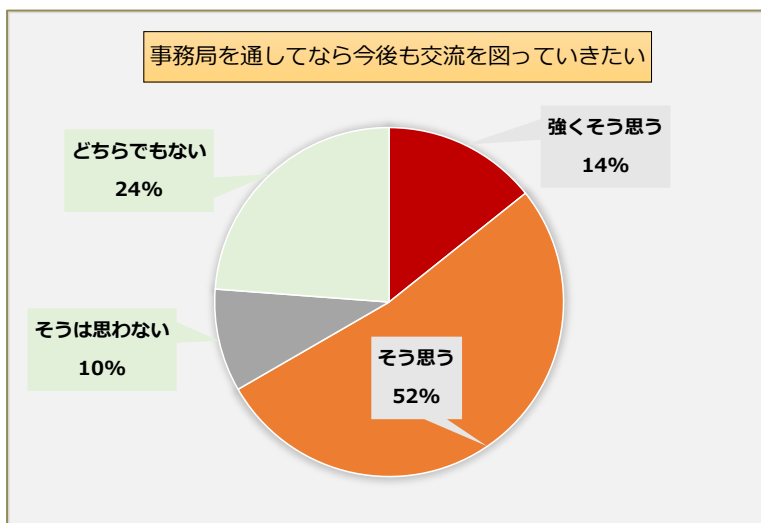


設問 3 ■ 交流により魅力ある人たちと出会えることができた？ <複数回答、単位：件数>



「そう思う」のポイントが高く、交流会での組織、個人との新しい発見があり、相互での興味関心事と認識できる結果となった。

設問 4 ■ 事務局を通してなら今後も交流を図っていききたい？



66%の回答者が、事務局機能の価値を見出している。「どちらでもない」の回答が 24%、「そうでない」10%となり、交流後の直接相互のやり取りの希望、またはケースにより事務局機能が必要と推測できる。

2. 平成 29 年度 第 2 回 CSR – NPO 未来交流会開催

<開催概要>

- ・開催日時：2018 年 2 月 1 日（木） 13:00～16:30
- ・開催場所：東京都千代田麹町 5-1 弘済会館 4F(秋)
- ・主催：東京湾再生官民連携フォーラム
- ・協力：経団連自然保護協議会、一般財団法人セブン-イレブン記念財団
- ・参加団体：28 団体 人数：46 名

内 容

今、注目を集める SDGs の目標についてと多様な組織によるパートナーシップから生まれて来る社会参加活動事例発表および、社員、職員が、自然環境を共有しながら実際に参加できる体験研修プログラム事例のご紹介。組織風土・マインドの違いを理解共有しながら、それぞれの組織が目標を設定してパートナーシップを進めていくことが、CSR の推進に重要となっています。対象は、環境、自然の保全活動、まちづくり活動、教育分野などへの関心の高い NPO、企業、行政の方々。

◆プログラム

I 部 参加型 体験研修プログラム及び地域連携組織づくり 13：10～14：30

	主催者挨拶	東京湾再生官民連携フォーラム 議長 來生 新
講演 -1	冒険教育プログラム×企業研修	NPO 法人 国際自然大学校 東京校 ディレクター 稲松謙太郎
講演 -2	企業×NPO 海の環境意識向上で持続可能な未来に ～海辺の環境学習を通して、生物多様性の大切さと海域環境保全の必要性を学ぶ～	NPO 法人 オーシャンファミリー 海洋自然体験センター 代表理事 海野 義明
講演 -3	地域パートナーによるサポート支援	株式会社 伊藤園 常務執行役員 CSR 推進部長 笹谷秀光

II 部 NPO プレゼンテーションセッション 14：40～15：00

① ～多摩川干潟の自然が教室～ だいし水辺の楽校の活動から	佐川麻理子 NPO 法人 多摩川干潟ネットワーク
② 寄付によるこどもの体験格差解消について ～ 一緒に取組みませんか ～	田邊 宏 公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団
③ 海辺の達人養成講座	中島 正雄 NPO 法人 海に学ぶ体験活動協議会

Ⅲ部 情報交流会 15:10~16:20

情報交流会 (35分×2セッション)	
モデレーター	菅家 英朗：NPO 法人海辺つくり研究会 理事 間瀬 範幸：東京湾再生官民連携フォーラム事務局

平成 29 年度 第 2 回 CSR – NPO 未来交流会 参加団体一覧表

(活動紹介は、事務局が各団体のホームページから引用)

【 講演者 】

(順不同、敬称略)

番号	団体名	活動紹介
1	NPO法人 国際自然大学校 東京校	http://www.nots.gr.jp/info/school_info/tokyo.html 首都圏に住む子ども達に、週末には近郊のキャンプ場・都市公園を活用し、学校の長期休暇には自然環境豊かな場所で、さまざまな体験教育活動の機会を提供しています。
2	NPO法人 オーシャンファミリー 海洋自然体験センター	http://oceanfamily.jp/about-us 年間を通じてスノーケリングや磯の生きもの観察などの自然体験活動を行い、魚や海の生きものについて学び、さらに海から地球環境全体を考える学びの場を提供しています。
3	株式会社 伊藤園	http://www.itoen.co.jp/company/profile/ 総合飲料企業として 社会課題の解決に貢献 「お客様第一主義」のために 世界のティーカンパニーへ 「お〜いお茶」のブランドで各種商品を提供

【 プレゼンテーション団体 】

番号	団体名	活動紹介
1	NPO法人 多摩川干潟ネットワーク	https://www.tamagawahigata.net/多摩川干潟ネットワーク/ 多摩川流域及び東京湾岸の活動団体、研究・教育機関及び行政等と連携・協働し、多摩川 流域リバーミュージアム、多摩川エコミュージアム構想、川崎市多摩川プランを推進するため、多摩川流域の自然環境保全などを行い、多摩川を拠点としたまちづくりの推進に寄与することを目的に活動しています。
2	(公財) ブルーシー・アンド・ グリーンランド財団 海洋センター・クラブ課	https://www.bgf.or.jp/about_us/ B & G財団は、青い海（ブルーシー）と緑の大地（グリーンランド）を活動の場として、海洋性レクリエーションをはじめとする自然体験活動などを通じて、次代を担う青少年の健全育成と幼児から高齢者まで国民の皆様の"心とからだの健康づくり"を推進しています。

番号	団体名	活動紹介
3	NPO法人 海に学ぶ体験活動協議会	http://cnac.or.jp/profile.html ■海辺で遊び学び育て、感動するよろこびを伝えます。 ■海への理解を深め、海を大切に作る気持ちを育てます。 ■ゆたかな人間性、心のかよった人と人のつながりを創ります。 ■人と海が共存する文化・社会を創造します。 ■海の力と活動にともなう危険性を理解し、安全への意識を高めます。

【参加企業】

(順不同)

番号	団体名	活動紹介
1	経団連自然保護協議会	https://www.keidanren.or.jp/kncf/ 経団連自然保護協議会は、ブラジルのリオデジャネイロで地球サミット(環境と開発に関する国連会議)が開催された 1992 年に設立されました。メンバーは経団連加盟企業の中から、自然保護や生物多様性の保全に積極的に取り組む企業(110社以上)により構成され、現在は主に下記のテーマの活動を重点的に取り組んでいます。 <ul style="list-style-type: none"> ・経団連自然保護基金によるNGOの自然保護活動支援 ・企業とNGOの交流の推進 ・企業への自然保護と生物多様性の啓発活動 ・自然再生を通じた東北復興支援
2	ディップ 株式会社	https://www.dip-net.co.jp/company/info.html 私たち dip は夢とアイデアと情熱で社会を改善する存在となる。Dip は企業理念のもと、人と仕事を結びつけるビジネスを始めとする事業活動を拡げ、ステークホルダーの皆様とより良い社会の実現を目指してまいります。非正規社員の待遇改善とそれに伴う経済活性化に向けた取り組みを行っています。 全国のバイト/アルバイトの求人情報を提供「バイトル」事業など
3	株式会社 ポルテック	http://www.portech.co.jp/business.php 建設コンサル <ul style="list-style-type: none"> ・発注者支援業務 ・建設工事に関する施工監理並びにコンサルタント業務 ・建設工事に伴う環境影響調査並びに補償コンサルタント業務 ・土木施設、建設物に係る維持管理に関する受託業務など

番号	団体名	活動紹介
4	株式会社 高千穂	http://www.takachiho-hsc.com/company/ 高千穂は昭和 45 年創業、施工実績は年間 3,000 件を超え、神奈川県下最大級。ブランド力 No.1 の「地元密着の工務店」。高千穂が開発した「シラス壁」は、南九州の特殊な土・シラスを主原料とした 100%自然素材の塗り壁材。化学樹脂や有機塗料などの化学物質を一切使用せず、人間の周りがある自然素材だけでつくっています。 また、高千穂のオリジナル塗料「レインシャットシリーズ」は、優れた通気性・耐久性を持つ無機系多機能塗料です。
5	新日鐵住金 株式会社	http://www.nssmc.com/tech/index.html “総合力世界 No.1 の鉄鋼メーカーにむけて” 新日鐵住金 技術開発本部/研究所は、お客様のニーズや環境・エネルギー問題などの社会的ニーズが多様化する中で、高級鋼分野の商品開発力や供給力の強化、原燃料の劣質化対応技術、企業の持続的発展の基盤となる環境対応技術に重点的に経営資源を投入し、基礎基盤研究から応用開発、エンジニアリングまで一貫した研究開発を進めています。その領域はインフラをはじめ多岐にわたります。

【 一般参加・市民団体等 】

(順不同)

番号	団体名	活動紹介
1	NPO法人 日本水中科学協会	http://jaus.jp/ 日本水中科学協会は、ダイビング指導機関、社会的な位置などにとらわれず、ダイビングによる活動を行い、その安全を追求しつつ、スポーツ、学術研究、文化、芸術、に貢献することを目標としています。
2	NPO法人 黒潮実感センター	http://www.orquesta.org/kuroshio/Article/ArticleView.jsp?article_id=40 海洋生物の宝庫である高知県柏島。この島の素晴らしさをより多くの人に知っていただき、共に育てていただくための活動をしているのが「黒潮実感センター」です。センター活動は、自然を実感する取り組み、自然とくらしを守る取り組み、自然を活かすくらしづくりを活動方針としています。
3	NPO法人 荒川クリーンエイド・フォーラム	http://www.cleanaid.jp/ 荒川クリーンエイド・フォーラムは、荒川のごみを調べながら拾うことを通じて、自然環境の回復と荒川に集い思いを寄せる人々の交流を作り出してきました。1994 年から始まったこの活動に、過去 23 年間に参加した人は延べ 20 万人に達し、川に対する関心が広がっています。

番号	団体名	活動紹介
4	NPO法人 日本渚の美術協会	http://www.npo-nagisa.com/ 海岸漂着物を「海からの贈り物」と称し、アート創作を手段として海浜美化啓発活動をしています。「海から生れた美術」なので「Sea Born Art (シーボーンアート)」と名付けました。
5	(公社) 日本環境教育 フォーラム	http://www.jeef.or.jp/about/index/ 公益社団法人日本環境教育フォーラム (Japan Environmental Education Forum : J E E F) は、国内外で環境教育を推進する団体や個人を会員にもち、環境教育によって持続可能な社会の実現を目指す NGO です。
6	NPO法人 バイオメディカル サイエンス研究会	https://www.npo-bmsa.org/ 2017年(平成29年)に30周年を迎えます。現在は、産・官・学・民への支援活動を理念とし、予防医学とバイオセーフティ技術(病原体等の安全管理・運営)を基盤として、感染症および公衆衛生分野における社会的支援・啓発活動を国内外において展開しています。
7	NPO法人 愛夢	日本という海に囲まれた環境の中で、海との自然に接することの少ない人々への自然学習の場、生涯学習の一貫としてマリンスポーツの普及、啓発及び発展に関する事業を行ない、海洋環境の保全、海をテーマにした地域振興を啓発し、広く一般市民の安全かつ快適な生活ならびに社会全体の利益の推進に寄与することを目的とする。 お問い合わせ用メールアドレス： dzb22267@nifty.com
8	(一社) 日本セーフティ カヌーイング協会	http://jsca.net/jsca 日本セーフティカヌーイング協会は、我が国における安全なカヌーイングの普及を図り、自然環境との調和的活用を高め、健全な心身の発達に寄与することを目的として設立された民間の団体です。 理念実現のために、カヌー指導員を目指す「検定会」や「安全普及プログラム」の実施、「公認スクール制度」・「保険の提供」等、さまざまな活動をしています。
9	NPO法人 すぎなみ環境ネットワーク	http://www.ecosuginet.jp/ 2003年(平成15年)、『市民の主体的な活動を中心に、行政や事業者と協働して、環境保全分野においてリサイクルの推進をはじめとする諸事業を行うことにより、市民の生活環境の向上をはかり、もって地球環境の保全に寄与する』ことを目的として、設立いたしました。 (1) もったいないの精神を活かす事業 (2) みどりに親しみ、知り、育てる事業 (3) 環境を意識した暮らし方とコミュニティづくり事業

番号	団体名	活動紹介
10	NPO法人 ジャパンハーブソサエティー	http://www.npo-jhs.jp/ 1984年8月2日に設立され、現在、創立31年と、わが国ではもっとも伝統あるハーブの団体として、さまざまな事業を行っています。 JHSはハーブに魅せられた全国のハーブ研究家、ハーブ愛好家、ハーブ関連企業、自治体、各種関連団体と交流・連携し、ハーブの普及、情報提供、社会貢献・地域貢献活動を積極的に行っています。 現在会員数は約1600名、北海道・北見から沖縄・石垣島まで27支部があり、地域の特徴を活かしたイベント、ハーブサミット、セミナー活動を行っています。特にハーブで生活の質を高め、豊かに暮らすための人材養成として、ハーブインストラクター養成・資格認定を実施しています。
11	NPO法人 フォーエヴァーグリーン	http://www.forever-green.jp/ 地球温暖化防止活動を行う事を目的として設立。環境教育や自然エネルギーの普及等に取り組み、持続可能な社会を築くことに貢献する活動を行っています。 おもな事業：①環境学習アクティブラーニングコンテンツ制作・実施・レポート制作（web/動画/漫画等）/②環境学習カリキュラムの実施/教材制作/環境情報発信/イベント制作/マーケティング調査/CSR企画制作など
12	NPO法人 角間里山みらい	http://satoyamamirai.jp/ NPO法人角間里山みらいは、企業、NPO、行政、地域住民等の地域の多様な主体と大学が連携して取り組む里山の保全・活用事業や人材育成事業をとおして、未来につなぐ新しい里山活用モデルの創出を図り、持続可能な地域社会の形成に寄与することを目的とし、平成24年3月28日、石川県の認証を受け、4月2日に設立しました。おもな事業；①地域連携による里山の保全・活用事業②里山の保全・活用をとおした教育・人材育成事業③里山資源を活かすための調査研究事業④里山資源の保全・活用に関する普及啓発、情報発信事業
13	ハマの海を想う会	https://sites.google.com/site/hamaumi/about-us ハマの海を想う会は、「もっと遊ぼうハマの海！」をスローガンに水辺での市民活動の機会提供と人材育成、環境美化に資する活動を展開しています。横浜のインナーハーバー地区を主な拠点とし、環境美化活動では 「横浜市港湾局みなとみどりサポーター」として象の鼻パークの清掃活動を毎月第一土曜日に実施しています。

番号	団体名	活動紹介
14	一般財団法人 セブン-イレブン記念財団	http://www.7midori.org/midori/index.html 一般財団法人セブン-イレブン記念財団は(株)セブン-イレブン・ジャパン創立 20 周年記念事業として、加盟店とセブン-イレブン本部が一体となって環境をテーマに社会貢献活動に取り組むことを目的として、1993 年(平成 5 年)に設立されました。 セブン-イレブン店頭でお客様からお預かりした募金とセブン-イレブン本部からの寄付金他を基に、セブン-イレブン加盟店とセブン-イレブン本部が相互協力のもと環境市民団体への支援活動や自然環境保護・保全、災害復興支援、広報活動などを行っています。

「交流会の結果」平成 29 年度 第 2 回 CSR - NPO 未来交流会開催報告

アンケート結果

◇アンケート回答者：13 名、無記名方式、会場配布・メール依頼回収

- 講演テーマ：「参加型 体験研修プログラム事例研究交流」
- 開催日時 平成 30 年 2 月 1 日（木） 13:00～16:30
- 開催場所 東京都千代田区麹町 5-1 弘済会館 4F（萩）
- 主催 東京湾再生官民連携フォーラム
- 協力 経団連自然保護協議会、一般財団法人セブン-イレブン記念財団
- 参加団体：28 団体 人数：46 名

内容

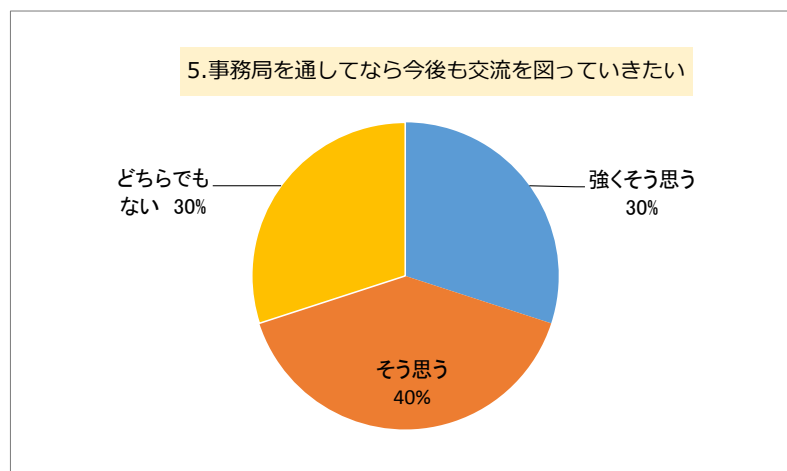
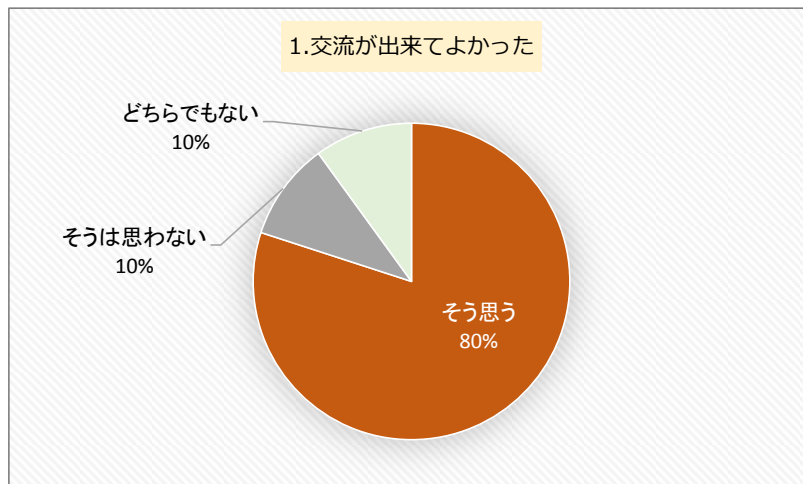
- 多様な組織によるパートナーシップから生まれて来る社会参加活動からの視点から今、注目を集める SDGs の目標についての講演。
 - 社員、職員が、自然環境を共有しながら実際に参加できる体験研修プログラム事例の紹介。
 - 組織風土・マインドの違いを理解共有しながら、それぞれの組織が目標を設定して、パートナーシップを進めていくことが、CSR の推進につながります。
- ※対象者は、環境、自然の保全活動、まちづくり活動、教育分野などへの関心の高い NPO、企業、行政の方々。

平成 29 年度 第 2 回 CSR - NPO 未来交流会は、SDGs の目標について、そして前回に引き続き、社員や職員が社員、自然環境を共有しながら、参加できる NPO 組織のプログラムの紹介を行った。テーマは「参加型 体験研修プログラム事例研究交流」。

アンケートの回答は、おおむね好評が寄せられている。「交流が出来て良かった」を含めて、全体的に、「そう思う」という回答が、多く寄せられました。アンケート内容は下記の通りです。

質問内容	強く そう 思う	そう 思う	そう は思 わな い	どち らで もな い
	記入欄			
1.交流が出来てよかった		8	1	1
2.情報の収集の場としては役に立った		8	1	1
3.交流の場は、活動紹介のPRとして役にたった	1	6	2	1
4.交流により魅力ある人たちと出会えることができた		7	1	2
5.事務局を通してなら今後も交流を図っていきたい	3	4		3
6.継続して交流しても良い組織・団体と出会えた	2	5		3
7.参考となる組織や活動が見つげられた		9	1	

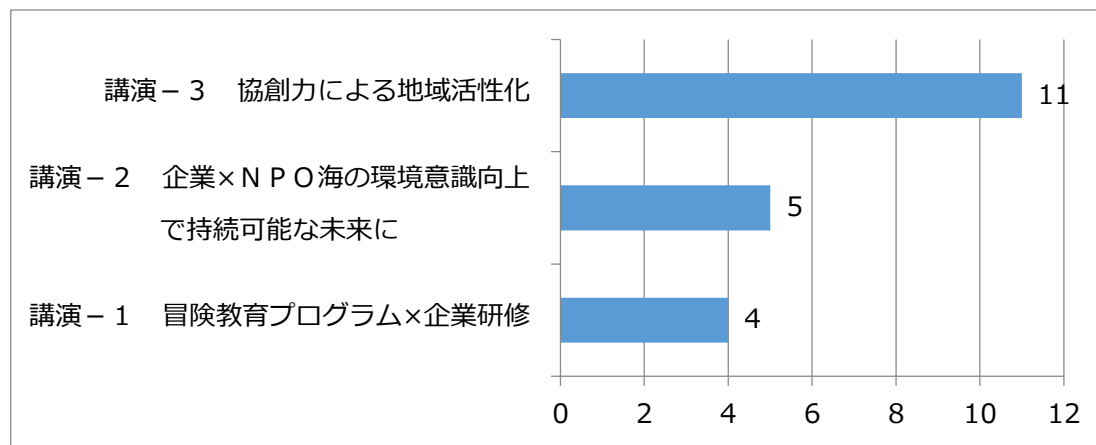
「そう思う」のポイントが高く、交流会での相互の興味関心があると認識できる結果となりました。



◇参考となった講演内容について

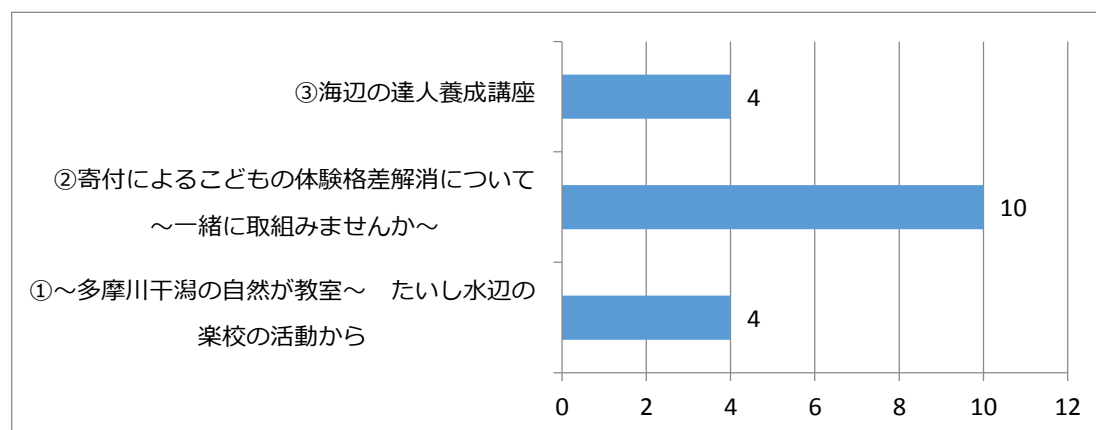
<複数回答、単位：件数>

講演－1 冒険教育プログラム×企業研修
講演－2 企業×NPO海的环境意識向上で持続可能な未来に
講演－3 協創力による地域活性化



<複数回答、単位：件数>

①～多摩川干潟の自然が教室～ たいし水辺の楽校の活動から
②寄付によるこどもの体験格差解消について ～一緒に取組みませんか～
③海辺の達人養成講座



3. CSR-NPO 未来交流会 企業・行政等施設見学会 2017

1. 開催日時：平成 29 年 9 月 21 日（木）11：15～17：00
2. 開催場所：新日鐵住金 技術開発本部 海域環境実験施設（千葉県富津市新富 20-1）
3. 主 催：東京湾再生官民連携フォーラム
4. 協 力：新日鐵住金株式会社
5. 参 加 者：28 名

5. 内 容

(1) 見学・企画意図

施設見学交流会 2017 の活動は、「多様な主体の交流の場を提供し、ネットワークを構築する。」ことを目指して東京湾再生官民連携フォーラム主催により実施します。

今回の見学先は、新日鐵住金株式会社の RE センター（富津）です。基礎技術から利用技術に取り組む新日鐵住金の施設見学の機会をご提供いただきました。

(2) プログラム

11：15 ～ 11：30 東京駅八重洲口ヤマダ電機前 集合／受付

11：30 ～ 13：30 バス移動

13：30 ～ 15：30 新日鐵住金 RE センター（富津）・技術開発本部（千葉県富津市新富 20-1）

(見学施設)

- ・ 研究所の研究概要を展示した展示ホールの見学
- ・ 海域環境実験設備（シーラボ）の見学・新日鐵住金の 海域環境改善への取り組みの紹介

15：30 ～ 17：00 バス移動

17：00 東京駅八重洲口 解散



この取り組み実験研究データ取得のためのシーラボ（海域環境シミュレータ）施設の見学です。シーラボは鉄鋼スラグの有用性と安全性に関しての長い間の研究となります。研究が始まり十数年間の経過です。

漁場・藻場の生育を助け、鉄分を供給することで、海の積極的な環境改善に寄与している「海の森づくり」を支える施設です。



シーラボ（海域環境シミュレータ）施設

VII. プロジェクトチームの活動状況

◇モニタリング PT（PT 長 横浜国立大学 客員教授 古川 恵太）

（1）PT 会合

- ・適宜メールベースで情報伝達（一斉調査関連、生物調査関連、マップ作製など）
- ・下記ワークショップ開催に合わせて PT 会合を実施

（2）東京湾環境一斉調査

第 1 回 PT 会議

開催日：平成 29 年年 5 月 9 日(火)

- ・東京湾再生推進会議モニタリング分科会打合せ（古川・風呂田先生オブザーバ参加）
- ・東京湾環境一斉調査への協力・参加

水質調査 基準日：8 月 2 日（予備日：9 月 6 日）

生物調査 7 月～9 月 環境啓発活動 7 月～9 月）

本年度は、生物調査へのテコ入れを予定。生物調査として、干潟調査（新設）を奨励し、その他調査（従来の形の自由な調査）とともに 7 月から 9 月にかけて実施することとなった。とりまとめは水産庁が担当。

- ・ワークショップ開催およびマップ作製

11 月下旬～12 月上旬：東京湾再生推進会議モニタリング分科会と併設）

Vol.12 の東京湾環境マップの作成

<関係先>

◇東京湾環境一斉調査 調査結果報告

http://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/Monitoring/General_survey/index.htm

◇生き物生息場づくり PT 第 2 期の活動（PT 長 東京大学大学院 教授 佐々木 淳）

第 2 期 第 2 回 PT 幹事会

開催日：平成 29 年年 9 月 8 日（金）

場 所：みなと総合研究財団会議室

1. 東京湾大感謝祭の役割分担
2. マコガレイ産卵場の低質改善に関わるモニタリングについて
3. PT 活動の体制について（佐々木）
4. 話題提供と個別の活動案に関する協議
5. 今後のスケジュールについて
6. その他

PT 会議

開催日：平成 29 年 10 月 10 日（火）

場 所：みなと総合研究財団会議室

1. 大感謝祭の展示企画について
2. 展示企画案

3. 政策提案のフォローアップ

◇指標活用 PT (PT 長 国土交通省国土技術政策総合研究所 海洋環境研究室長 岡田 知也)

第 4 回 指標活用 PT

開催日：平成 29 年 4 月 19 日 (火)

場 所：みなと総合研究財団会議室

議 題：

1. H28 市民データ WG の活動報告
2. 東京湾推進会議中間評価の報告・課題等 (指標に関して)
3. 今年度の活動内容・枠組み
 - ・市民データのアンケート調査 (昨年度実績)
 - ・中間評価の結果を受けて、指標および評価方法等の改善点について議論
 - ・活動 (検討) 方法/WG で検討
 - ・その他：感謝祭への協力依頼

第 1 回 市民データ WG (指標活用 PT)

開催日：平成 29 年 5 月 16 日 (火)

場 所：みなと総合研究財団会議室

議 題：

1. 情報量を増やすための改善策
 2. その他
- 東京湾再生官民連携フォーラム HP への昨年度のデータ結果の掲載

第 1 回 データ整理・評価 WG

開催日：平成 29 年 5 月 24 日 (水)

場 所：みなと総合研究財団会議室

議 題：

1. 課題の抽出
2. スケジュール
3. 作業体制・役割分担など

第 2 回 市民データ WG (指標活用 PT)

開催日：平成 29 年 6 月 21 日 (火)

場 所：みなと総合研究財団会議室

議 題：

1. 情報量を増やすための改善策
2. その他

第 2 回 データ整理・評価 WG

開催日：平成 29 年 8 月 4 日 (金)

場 所：みなと総合研究財団会議室

議 題：

1. スケジュールの確認
2. 前回課題について
3. 課題の抽出つづき 4. 作業体制・役割分担
4. その他

第3回 データ整理・評価 WG

開催日：平成 29 年 11 月 9 日（木）

場 所：みなと総合研究財団会議室

議 題：

1. スケジュールの確認
2. 前回課題について
 - (ア) A-1, A-2 COD および透明度の解析
 - (イ) A-4 糞便性汚染
 - (ウ) A-9 海浜公園等の施設利用者数
 - (エ) B-3 生物共生型港湾構造物の延長
3. その他

第4回 データ整理・評価 WG

開催日：平成 30 年 1 月 15 日（月）

場 所：みなと総合研究財団会議室

議 題：

1. A-1, A-2 COD および透明度の解析
2. A-4 糞便性汚染 3. A-9 海浜公園等の施設利用者数
3. B-3 生物共生型港湾構造物の延長

◇東京湾大感謝祭 PT（PT 長 NPO 法人海辺つくり研究会 理事・事務局長 木村 尚）

平成 29 年 第 4 回 東京湾大感謝祭実行委員会

開催日：平成 28 年 4 月 27 日（木）

会 場：みなと総合研究財団会議室

議 事：

1. 前回確認
2. 企画テーマの起案・進捗について
3. 東京湾大感謝祭 2016 決算報告
4. 東京湾大感謝祭 2017 予算（案）
5. その他

平成 29 年 第 5 回 東京湾大感謝祭実行委員会

開催日：平成 29 年 5 月 22 日（木）

会 場：みなと総合研究財団会議室

議 事：

1. 前回確認
2. 企画テーマの起案・進捗について
3. その他

平成 29 年 第 6 回 東京湾大感謝祭実行委員会

開催日：平成 29 年 6 月 29 日（木）

会 場：みなと総合研究財団会議室

議 事：

1. 前回確認
2. 出展状況確認
3. 企画テーマの起案・進捗について
4. その他

平成 29 年 第 7 回 東京湾大感謝祭実行委員会

開催日：平成 29 年 7 月 25 日（木）

会 場：みなと総合研究財団会議室

議 事：

1. 前回確認
2. 出展状況確認
3. 企画テーマの起案・進捗について
4. その他

平成 29 年 第 8 回 東京湾大感謝祭実行委員会

開催日：平成 28 年 8 月 24 日（木）

会 場：みなと総合研究財団会議室

議 事：

1. 前回確認
2. 出展状況確認
3. 企画テーマの起案・進捗について
4. その他

平成 29 年 第 9 回 東京湾大感謝祭実行委員会

開催日：平成 29 年 9 月 22 日（木）

会 場：みなと総合研究財団会議室

議 事：

1. 前回確認
2. 出展一覧・会場レイアウト（案）
3. 企画テーマの起案・進捗について
4. その他

平成 29 年 第 10 回 東京湾大感謝祭実行委員会

開催日：平成 29 年 12 月 18 日（月）

会 場：みなと総合研究財団会議室

議 事：

1. 東京湾大感謝祭 2017 振り返り
2. その他（2018 年開催について ほか）

平成 30 年 第 1 回 東京湾大感謝祭実行委員会

開催日：平成 30 年 1 月 22 日（月）

会 場：テンポランド・スマート会議室

議 事：

1. 前回確認
2. 企画テーマ及び概要（案）について
3. その他

平成 30 年 第 2 回 東京湾大感謝祭実行委員会

開催日：平成 30 年 2 月 22 日（木）

会 場：みなと総合研究財団会議室

議 事：

1. 前回確認
2. 企画テーマ及び概要（案）について
3. 東京湾大感謝祭 2016 決算見込（案）について
4. その他

◇パブリックアクセス方策・検討 PT（PT 長 NPO 法人 横浜創造まちづくり学会 会長 竹口 秀夫 ）

平成 29 年度 第 1 回会合

開催日：平成 29 年 9 月 14 日（木）

場 所：みなと総合研究財団会議室

1. 昨年度の報告
2. フォーラム活動の主要な動き東京湾パブリックアクセスに関する提案（素案）に対する意見と対応
3. PT の検討状況と今後の取り組みについて
4. 企画運営委員会委員の任期について
5. 次回日程

平成 29 年度 第 2 回会合

開催日：平成 29 年 11 月 15 日（水）

場 所：みなと総合研究財団会議室

1. 検討テーマの所在
2. 工場敷地の利用可能性の検討
3. PT としての方針を定めるために
4. PT としての対応方針（案）

◇東京湾での海水浴復活の方策検討 P T

（PT 長 認定 N P O 法人ふるさと東京を考える実行委員会 理事長 関口 雄三）

平成 29 年度 会合

開催日：平成 29 年 7 月 27 日（水）

場 所：みなと総合研究財団会議室

1. 東京湾の浜辺における海水浴に関する実態調査結果について
2. 政策提案（たたき台）について

◇江戸前ブランド育成 P T (P T 長 水産研究・教育機構 牧野グループ長)

平成 29 年度 江戸前ブランド育成 P T

- ・東京湾大感謝祭 2017 の企画立案・実施
- ・新体制下における江戸前 PT の活動方針の再検討、など

①東京湾大感謝祭 2017 への水産業界への働きかけの実施

協力関係の構築を行い、大日本水産会、日本水産資源保護協会、国産水産物流通促進センター、全国漁業協同組合連合会漁政部、J F 全いか協、水産庁（（一財）東京水産振興会、（一社）マリン・エコラベル・ジャパン協議会などへのコンタクトを実施する。また、遠忠商店、千葉県漁連、横浜市漁協なども引き続き、東京湾大感謝祭協力。

- #### ②フォーラム事務局により江戸前ブランド育成 P T の活動を中心に、生物多様性アクション大賞 2017 「たべよう部門」に応募し、結果入賞となる。

◇東京湾浅瀬再生実験 P T (P T 長 公益財団法人 日本釣振興会 常務理事 鈴木 康友)

浅瀬の再生事例の抽出及び情報収集（実地調査含む）、実施場所候補の検討（場所の抽出、制約条件整理）などのために、引き続き事例研究を実施してきた。

第 4 回 東京湾浅瀬再生実験 PT 会合

開催日：平成 29 年 5 月 24 日（水）

場 所：みなと総合研究財団会議室

<話題提供・事例研究>

- ・東京都 港湾局 臨海開発部 海上公園課の「東京都の取り組みに関して」

第 5 回 東京湾浅瀬再生実験 PT 会合

開催日：平成 29 年 7 月 27 日（木）

場 所：横浜技調「潮彩の渚」

（国土交通省 関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所の人工干潟）

<話題提供・事例研究>

●潮彩の渚見学会

潮彩の渚は大正時代に内務省の造船所として造られた。1961～1962 年に造成した栈橋が老朽化したため、栈橋を取り壊し撤去。その場所に、地震に強い港湾施設と海の生物が共存できる構造を再現し、その結果を実験的に実証しながら、護岸の補修や補強に活かしていくことを目的として、2008 年 2 月 29 日に竣工された干潟・磯場等環境実験施設が潮彩の渚。

●座談会

遠藤敏雄様（国土交通省 関東地方整備局 横浜港湾空港技術調査事務所所長）参加のもと、当日の参加者 15 名で実施。

◇東京湾の窓 P T (P T長 谷津干潟ワイズユース・パートナーズ 芝原 達也)

第 4 回 東京湾の窓 P T 会議

開催日：平成 29 年 4 月 11 日(火)

場 所：みなと総合研究財団会議室

- ・今までの議論の整理とこれからの報告性について検討
 - ①東京湾の窓としての評価、既存施設等の活用
 - ②各施設の東京湾の視点について、湾から見た施設の評価と役割
 - ③東京湾の窓の活用
- ・東京湾環境学習フォーラム協力の報告

第 5 回 東京湾の窓 P T 会議

開催日：平成 29 年 8 月 23 日 (水)

場 所：みなと総合研究財団会議室

- ・東京湾大感謝祭 2017 の出展について ・スタンプラリー結果報告と今後の方向について

東京湾・公園めぐりスタンプラリーの開催

「東京湾のいろいろな施設をめぐって東京湾の自然を楽しもう！ 東京湾の施設をめぐってスタンプを集めて賞品をゲットしよう」

- 日 時：6月1日(木)～7月17日(月・祝)
- 場 所：谷津干潟自然観察センター、行徳野鳥観察舎・管理事務所、葛西臨海公園鳥類園、東京都葛西臨海水族園、東京都立東京港野鳥公園、大森 海苔のふるさと館
- 内 容：東京湾のいろいろな施設をめぐって東京湾の自然を楽しみましょう。各施設のスタンプラリーのコーナーでスタンプシートを入手し、その裏面に所定のスタンプを集めると賞品がもらえます。
- 主 催：谷津干潟の日運営委員会・谷津干潟自然観察センター



スタンプラリー配布数

配布場所	枚数
谷津干潟自然観察センター	267
行徳野鳥観察舎・管理事務所	74
葛西臨海公園鳥類園	143
東京都葛西臨海水族園	7920
東京都立東京港野鳥公園	77
大森 海苔のふるさと館	93
合 計	8574

◇平成 29 年度 PT 長会議開催

開催日：平成 29 年 9 月 5 日（火） 16:00～17:45

場 所：みなと総合研究財団会議室

内 容：「政策提案作成の経験共有」

以下の政策提案の事例を参考に政策提案の仕方の比較を検討し、さらに充実させる表現方法などについて情報交換、議論を行った。

- ・東京湾再生のための行動計画（第二期）への指標提案
 - ・新たな指標に関する提案
 - ・東京湾再生のための行動計画（第二期）の新たな指標に関する提案解説書（概要版）
- ・東京湾再生のための行動計画（第二期）への生き物生息場づくり提案
 - ・生き物生息場づくりに関する提案書
 - ・生き物生息場づくりに関する提案書補足説明資料
- ・東京湾再生のための行動計画（第二期）への東京湾パブリック・アクセス方策に関する第一次提案について
 - ・東京湾パブリック・アクセス方策に関する第一次提案

VIII. 広報活動 / 交流会参加

1. 経団連自然保護協議会のシンポジウムおよび交流会の参加

2. 会員へのメール配信

会員への情報提供は、東京湾-News Letter として実施し、平均隔週毎の配信で、平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日 配信数：28 件行いました。（資料 p48 参照「東京湾-News Letter」）

3. 東京湾大感謝祭 2017 開催

- 催 事 名：東京湾大感謝祭 2017

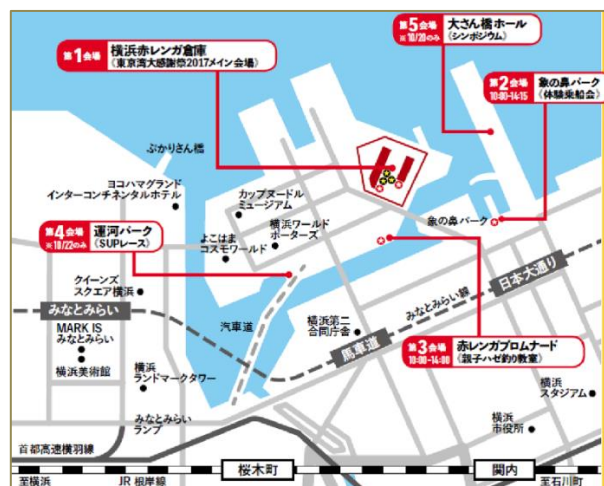
- 会 期：2017年10月20日（金）～22日（日） 10：00～17：00
 ※20日（金）は午後より東京湾シンポジウムのみ ※22日（日）は午後4時30分まで
- 会 場：横浜赤レンガ倉庫（広場・大栈橋ホール） 横浜赤レンガ倉庫周辺海上
 （ピア象の鼻、赤レンガプロムナード、運河パーク）
- 主 催：東京湾大感謝祭実行委員会
- 共 催：国土交通省関東地方整備局、環境省、横浜市、東京湾再生官民連携フォーラム、
 （一財）みなと総合研究財団、東京湾の環境をよくするために行動する会、
 横浜港ポート天国推進連絡協議会

- 後 援：東京湾再生推進会議、文部科学省、海上保安庁、水産庁、国土交通省関東運輸局、
 （国研）海洋研究開発機構、（国研）水産研究・教育機構、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、
 さいたま市、千葉市、川崎市、横須賀市、横浜港運協会、（公財）横浜観光コンベンション・ビューロー、
 （一社）横浜港振興協会、FMヨコハマ、経団連自然保護協議会、（公財）日本釣振興会、
 （一社）日本マリン事業協会、（一財）日本海洋レジャー安全・振興協会

- 協 賛：（株）アスカ、ESR（株）、（株）銀座サクラヤ、（株）クルー・エレテック、京浜急行電鉄（株）、
 （株）コスモ企画、清水建設（株）、（株）スリービー、（一社）日本潜水協会、日本ミクニヤ（株）、
 藤木企業（株）、三井アウトレットパーク、横浜ベイサイド、三井不動産（株）、リスト（株）

- 協 力：（一財）セブン-イレブン記念財団、横浜港ポート天国実行委員会、都漁連内湾釣魚協議会、
 東京湾遊漁船業協同組合、千葉県漁業協同組合連合会、横浜市漁業協同組合、（公財）帆船日本丸記念
 財団、（公財）ブルーシー・アンド・グリーンランド財団、（公財）東京動物園協会葛西臨海水族園、
 （株）横浜八景島、UMI 協議会、マリンジャーナリスト会議、日本釣りジャーナリスト協議会、下水道
 広報プラットフォーム（GKP）、（公社）関東小型船安全協会、（公財）マリンスポーツ財団、
 K38JAPAN、ヤマハ発動機（株）、（株）ロイヤルウイング、（株）ポートサービス、京浜フェリ
 ーボート（株）、（株）ケーエムシーコーポレーション、ホテルメルパルク横浜、（株）つり人社、
 NPO 法人海辺つくり研究会、NPO 法人 Blue Earth Project、横浜 SUP 倶楽部、ハマの海を想う会

▶開催会場



- 2万5千名/2日間 ※2017年10月22日(日)は荒天(台風21号)につき中止

催事名：東京湾大感謝祭 2016

会期：平成28年10月21日(金)～23日(日) 10:00～17:00

※21日(金)は午後より東京湾シンポジウムのみ

会場：横浜赤レンガ倉庫(広場・1号館)



▶チラシ・ポスター

4. 生物多様性アクション大賞 2017 授賞式参加

12月8日(金) 13:30から主催・国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)共催・一般財団法人セブーン・イレブン記念財団による「生物多様性アクション大賞 2017」の受賞者決定及び授賞式が行われました。フォーラム事務局も入賞38団体に入り、授賞式に参加してきました。

生物多様性アクション大賞は、「国連生物多様性の10年」の日本における広報活動の一環として2013年にスタートし、今年は5回目を迎えています。

当日は、環境省自然環境局 生物多様性主流化室 長田室長の挨拶があり、続いて5部門の表彰授与、受賞団体のプレゼンテーションが行われました。その後、優秀賞、特別賞の中から審査員による農林水産大臣賞と環境大臣賞の審査が、おこなわれ、農林水産大臣賞には「つたえよう部門」の魚部が、環境大臣賞には、「まもろう部門」の(株)加藤建設が受賞しました。

東京湾最官民連携フォーラムは、江戸前ブランド育成PTの活動を中心に「たべよう部門」に応募し、入賞となりました。

詳細は以下の環境省のウェブサイトを参照ください。

<http://www.env.go.jp/press/104816.html>



写真は、農林水産大臣賞の講評と受賞者
受賞記念撮影



気になる被り物は、体長1.3ミリ、ヒメドロムシ
(農林水産大臣賞受賞「魚部」)「つたえよう部門」の漁部

今回 2017 年は、全体を通して、それぞれの組織・団体の活動が、好きなことを、面白がりながら、楽しみながら、学びながらの一途な姿勢が、大きな共感となり輪を広げてきて、現在の活動に至っている印象がありました。



表彰式集合写真

017.12.15

5. 「東京湾/フォーラム活動の紹介・各地への情報発信」

東京湾再生官民連携フォーラムの活動や組織の様子を他地域や他湾などに紹介した講演

	日 時・講演名称	テーマ(内容)	講演者	場 所
1	2017.02.23 第 11 回海の再生全国会議	これからの海の再生プロジェクトの在り方 東京湾再生官民連携フォーラムの経験と課題	東京湾再生官民連携フォーラム 議長・放送大学 副学長 來生 新	東京都 港区
2	2017.05.22 大村湾議員連盟研修会	「大村湾における 沿岸域の総合的管理 (ICM) 水平的・重層的取組みに向けて」 大村湾議員連盟	笹川平和財団海洋政策研究所海洋研究 調査部長上席研究員 古川 恵太	長崎県 大村市
3	2017.05.27 東京みなと祭り	東京湾の「今」を知ろう! 「八 ぜから考える東京湾」 海上保安庁海洋情報部	笹川平和財団海洋政策研究所海洋研究 調査部長上席研究員 古川 恵太	東京都 中央区
4	2017.07.23 沿岸域学会 平成 29 年度全国 大会・熊本県沿岸域再生官民連 携フォーラム共催シンポジウム	有明・八代海の環境再生と新 たな活動主体の形成 —東京湾の経験から—	東京湾再生官民連携フォーラム 議長・放送大学学長 來生 新	熊本県 熊本市
5	2017.08.08 中国南海研究院特別講座	「東京湾 歴史传承・生物間的 链接・人与人的关系」 中国南海研究院	笹川平和財団海洋政策研究所海洋研究 調査部長上席研究員 古川 恵太	海口市 中国南海 研究所
6	2017.09.12 2017 年度経団連「環境基礎講座 《生物多様性編》 第 2 回マッチングプログラム」	東京湾再生と企業の関わりに ついて	東京湾再生官民連携フォーラム 事務局長 細川 恭史	東京都 千代田区
7	2017.11.09 China-ASEAN Academy on Ocean Law and Governance	Environmental onservation AndSustainable Development by ICM 中国南海研究院	笹川平和財団海洋政策研究所海洋研究 調査部長上席研究員 古川 恵太	中華人民 共和国 海南省 海口市
8	2017.11.21 2017REGIONAL ICM TRAINING OF TRAINERS WORKSHOP	Recent Evolutionof Integrated Coastal Management in Japan PEMSEA/NOWPAP	笹川平和財団海洋政策研究所海洋研究 調査部長上席研究員 古川 恵太	中華人民 共和国 海南省 海口市

	日 時・講演名称	テーマ(内容)	講演者	場 所
9	2017.12.01 熊本県沿岸域再生官民連携フォーラム設立総会特別講演	アマモ場再生から東京湾再生官民連携フォーラムへ	NPO 海辺つくり研究会 木村 尚	熊本県 八代市
10	2017.12.16 平成 29 年度有明海再生機構シンポジウム	東京湾再生官民連携フォーラムの紹介 次世代へつなぐ再生・創生への課題～瀬戸内海・東京湾・有明海の現場から～	東京湾再生官民連携フォーラム事務局長 細川 恭史	佐賀県 佐賀市
11	2018.02.15 第 12 回海の再生全国会議	東京湾水環境再生計画に基づく取り組みについて」	国土交通省関東地方整備局港湾空港部事業継続計画官付海洋環境係長 石崎 カ	大阪府 大阪市
12	2018.3.17 第 5 回かがわ里海づくりシンポジウム	基調講演・みんなで取り組む里海づくり －民間団体・企業の社会貢献活動に着目して－	笹川平和財団海洋政策研究所海洋研究 調査部長上席研究員古川 恵太	香川県 高松市
13	2018.03.29 宇部工業高等専門学校研究推進モデル事業「これからの海の保全・再生のかたち」特別講演	東京湾における官民連携による海の再生と今後のあり方	東京湾再生官民連携フォーラム議長・放送大学学長 來生 新	山口県 宇部市

6. 資料 会員メール配信 東京湾 News Letter

(本文 p42 Ⅷ. 2.会員へのメール配信 参考資料)

件数	配信日	内 容
1	2017.04.19 2017.04.24	フォーラム会員メンバーの方へのお知らせ「東京湾-News Letter」 CSR-NPO 未来交流会 2017 で発表する「プレゼンテーション募集」のご案内 7月20日(木)開催のCSR-NPO 未来交流会 2017 では、皆様方の活動プレゼンテーションを募集します。-
2	2017.05.10	国際シンポジウムのご案内 「東日本大震災により流出、北太平洋横断した海洋漂流物」環境省が北太平洋海洋科学機構(PICES)国際機関を通じて実施した漂流物の海洋物理と付着していた生物に関する日米カナダによる共同研究調査結果の発表
3	2017.05.30	5月23日、経団連自然保護協議会・経団連自然保護基金「創設25周年記念式典」に参加、交流促進活動を実施。 経団連自然保護協議会・経団連自然保護基金は、創設25周年記念式典を去る2017年5月23日(火)経団連会館・2Fホールで開催しました。同時に、「2017年度 企業とNGO等との交流会」が行われ、東京湾再生官民連携フォーラムは、展示等を実施し、参加団体との交流促進を行いました。
4	2017.06.03	6月2日より東京湾環境一斉調査の募集!!開始のご案内本年度の東京湾環境一斉調査の募集が開始されました。本調査は、東京湾再生推進会議のモニタリング分科会が事務局となり毎年実施されています。
5	2017.06.04 2017.07.03	東京湾・公園めぐりスタンプラリーのお知らせ東京湾を体験できる東京湾岸の施設・公園をめぐってもらい、東京湾の自然に親しんでいただくスタンプラリーが始まりました。スタンプを集めながら、それぞれ特徴ある施設をめぐるとの企画です。 開催期間:6月1日(木)~7月17日(月・祝) 主催:谷津干潟の日運営委員会・谷津干潟自然観察センター
6	2017.06.14	CSR-NPO 未来交流会 2017、参加者募集のご案内!!東京湾再生官民連携フォーラム主催、経団連自然保護協議会、一般財団法人セブン-イレブン記念財団のご協力により、来る7月20日(木)CSR-NPO 未来交流会 2017 を開催いたします。
7	2016.07.05	東京湾環境一斉調査 活動情報のご案内
8	2017.07.28	CSR-NPO 未来交流会 2017 開催報告 CSR-NPO 未来交流会 2017 は、7月20日(木)開催され、盛況のうち閉幕いたしました。開催にあたり新しい試みとして、主に企業様向けのプログラムを準備し、社員参加ができるメニューを持つNPO組織のプログラムの紹介を行いました。
9	2017.08.02	CSR-NPO 未来交流会 2017 アンケート結果、公表のお知らせ 会場内で配布回収したアンケート回答の集計結果ができました。 ホームページにおいて、「アンケート結果」を公開しておりますのでお知らせします。
10	2017.08.02	フォーラム 指標活用PT活動のデータ収集ご協力をお願い

		<p><収集内容></p> <p>東京湾再生のための行動計画の指標の活用 PT（略：指標活用 PT）では、東京湾再生のための行動計画（第二期）の指標をとおして、様々な団体による東京湾再生に関連した活動がより促進されることを期待し、次の3つの指標についてデータの収集を行います</p>
11	2017.08.17	<p>2017年10月20日開催・第18回 東京湾シンポジウムのご案内</p> <p>およびポスターセッションのポスター募集！！</p> <p>今年のテーマは、「沿岸域の持つサービスと沿岸環境」です。</p> <p>東京湾および閉鎖性内湾の環境研究の情報収集・交換の場として活用ください。</p>
12	2017.08.25	<p>フォーラム会員限定：企業・行政等施設見学 参加者募集！！</p> <p>～新日鐵住金 海域環境実験施設・REセンター（富津）の見学～</p> <p>連携フォーラム主催により施設見学交流会 2017 実施します。今回の見学先は、新日鐵住金株式会社のREセンター（富津）です。</p>
13	2017.08.30	<p>指標活用 PT 活動のデータ収集ご協力のお願い(再送)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 東京湾および東京湾に流入する河川におけるゴミ回収活動 2. 東京湾における水遊びや環境学習等のイベント 3. 水遊び空間における水難事故防止のための監視・パトロール活動回数
14	2017.09.26	<p>企業・行政等施設見学 募集のお知らせ</p> <p>～新日鐵住金 海域環境実験施設・REセンター（富津）の見学～開催日時：平成29年9月21日（木）11：15～17：00</p>
15	2017.09.15	<p>会員限定 東京湾大感謝祭 2017 無料出展のご案内 横浜・赤レンガ倉庫 広場今年も東京湾大感謝祭 2017 を開催する運びとなりました。横浜市の共催参加や海上保安庁は、海からの安全をテーマに、海難救助のデモなども行われる予定です。</p>
16	2016.08.15	<p>東京湾大感謝祭 2017 無料出展の締切のお知らせ会員様からの無料出展の応募を締め切ります。</p>
17	2017.10.01	<p>フォーラム 平成29年度通常総会開催のお知らせ 2017年10月21日(土) 東京湾再生官民連携フォーラム 平成29年度通常総会を開催いたします。今年は会場が変更になり「横浜港大棧橋国際客船ターミナル2F 大棧橋ホール」です。</p>
18	2017.10.18	<p>東京湾大感謝祭 2017・東京湾大交流会開催のお知らせ 東京湾大交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日時：2017年10月21日（土） 18時10分より ・会場象の鼻テラス（〒231-0002 横浜市中区海岸通1丁目） ・会費：5000円（税込） ※当日受付にて精算
19	2017.10.25	<p>東京湾再生官民連携フォーラム第5回通常総会、結果のお知らせおよびご協力の御礼</p> <p>10月21日（土）に開催されました フォーラム第5回通常総会は無事終了しました。台風の接近に伴い、あいにくの雨模様となりましたが、ご出席頂きました皆様、どうもありがとうございました。</p>
20	2017.11.24	<p>生物多様性アクション大賞 2017 入賞！！しましたフォーラム事務局は、「生物多様性アクション大賞 2017」</p>

		江戸前ブランド育成PTの活動を中心に「たべよう部門」※に応募し、入賞となりました。
21	2017.11.25	CSR-NPO 未来交流会開催に伴う会員限定プレゼンテーションの募集のご案内 開催日：2018年2月1日（木）13:00～16:30 開催場所：四谷 弘済会館
22	2017.11.25	「東京湾の窓 PT」の感謝祭ブース内で、紹介した愛嬌のあるトビハゼやカニの動画がYouTube にアップされています！！
23	2017.12.12	生物多様性アクション大賞 2017 授賞式の参加報告 各賞を受賞した NPO 組織が参加し、優秀賞、特別賞受賞者のプレゼンや主催者側による主旨説明、講評などが行われました。
24	2017.12.13	PT メンバーの協力番組放送予定のご紹介マコガレイの撮影をお手伝いしたので、東京湾の浮遊仔魚調査の様子の映像一部放映予定。
25	2017.12.21	CSR-NPO 未来交流会、参加者募集のご案内！！東京湾再生官民連携フォーラム主催の CSR-NPO 未来交流会を開催いたします。プログラム概要は、参加型体験研修プログラム事例研究をテーマに、企業の方々や団体組織がみんなで参加できるプログラムのご紹介を中心に企画いたしました。 開催日時：2018年2月1日（木） 13:00～16:30 開催場所：東京都千代田麹町 5-1 弘済会館 4F(萩)
26	2018.01.15	2018 年世界湿地の日 記念シンポジウム 2 月 2 日（金）開催のご案内都市の湿地を守ろう～持続可能な未来のために～街の暮らしを支える湿地をテーマに、主催・日本国際湿地保全連合、国連大学サステナビリティ高等研究、地球環境パートナーシッププラザにより「2018 年世界湿地の日記念シンポジウム」が開催されます。 ◆シンポジウム概要 開催日時：2018年2月2日（金）14:00～17:00 場 所：国連大学エリザベスローズ国際会議場（東京・渋谷） 主 催：日本国際湿地保全連合、国連大学サステナビリティ高等研究、地球環境パートナーシッププラザ
27	2018.01.29	シンポジウム概要 第 9 回 東京湾海洋環境シンポジウム 「東京湾を学ぶ：生態系の現状 2017」 日時：2018年2月12日（月・休日）13:00～17:00 会場：東邦大学習志野キャンパス・理学部 5 号館 1 階 5104 教室 共催：東京湾海洋環境研究会、東邦大学理学部東京湾生態系研究センター 後援：東京大学海洋アライアンス、東京湾再生官民連携フォーラム、東京湾をよくするために行動する会
28	2018.3.06	平成 29 年度 東京湾再生官民連携フォーラム 来生 新 議長 宇部工業高等専門学校 研究推進モデル事業講演会： 「—これからの海の保全・再生のかたち—」 において、特別講演を行います。

IX. 平成 29 年度決算報告

平成29年度決算

2018/5/1

【収入の部】

(単位:円)

科 目	H29年度予算	H29年度決算	備 考
(1) 寄付金収入	100,000	61,080	
(2) 助成金収入	4,500,000	4,000,000	セブソーレブソ記念財団
(3) 雑収入	0	45,007	
普通利息	0	7	
その他	0	45,000	
(A) 単年度収入合計	4,600,000	4,106,087	
(B) 前年度繰越額	4,402	4,402	
(C) 収入合計 =(A)+(B)	4,604,402	4,110,489	

【支出の部】

(単位:円)

科 目	H29年度予算	H29年度決算	備 考
(1) 事務局経費	3,221,888	3,140,013	
1) 事務局人件費	2,748,120	2,710,849	給与、通勤費等
2) 事務局運営費	473,768	429,164	HP管理・更新、通信費
(2) フォーラム事業費	1,378,112	968,835	
(D) 単年度支出計	4,600,000	4,108,848	
(E) 単年度収支差額 =(A)-(D)	0	-2,761	
(F) 次年度繰越額=(C)-(D)	4,402	1,641	

セブン-イレブン記念財団

※ 東京湾再生官民連携フォーラム事業は、一般財団法人セブン-イレブン記念財団からの多大なご支援を受けております。

※ 6名の個人の方からご寄附を頂きました。感謝、御礼申し上げます。



この事業は「国連生物多様性の10年日本委員会（UNDB-J）」が推奨する事業として認定を受けています

東京湾再生官民連携フォーラム事務局

東京都港区虎ノ門3-1-10 第2虎の門電気ビルディング4F
(一般財団法人 みなと総合研究財団内)

電話 03-5408-8298